

KUROSHIO

March 2025 Volume 50



鹿児島県立短期大学
地域研究所

KUROSHIO March 2025 Volume 50

Index

■巻頭言

教育の質保証と魅力ある県立短期大学づくり	学 長	飯干 明	1
----------------------------	-----	------	---

■退任の挨拶

県短, 退任しますが	生活科学科	川島 茂	2
------------------	-------	------	---

■新任の挨拶

イイ声 イイ顔 イイ動き	生活科学科	浜田 幸史	3
新任のご挨拶	生活科学科	中島 一喜	3
着任のご挨拶	商 経 学 科	藤野 博行	4
新任のご挨拶	商 経 学 科	前田 千春	4

■留学生手記

夢のような鹿児島	南京農業大学2年	任 静琪	5
二十歳で県短にいたこの年	南京農業大学3年	孫 子豪	6
鹿児島の美	南京農業大学3年	郭 若臣	7

■海外研修報告

I love Aloha spirit!	文 学 科1年	大重優梨菜	8
ハワイ研修を通して学んだこと	生活科学科1年	泊口 結愛	8
全てが有意義だった異文化体験	文 学 科1年	堀 碧記	9
初めての海外研修	文 学 科1年	吉村 有結	10

■生涯学習の取り組み

2024年度鹿児島県立短期大学公開講座

食と健康	文 学 科	遠峯伸一郎	12
2024年度伊敷公民館講座	文 学 科	遠峯伸一郎	15
2024年度鹿児島県立短期大学 奄美サテライト講座	商 経 学 科	福田 忠弘	17

■地域研究報告 2024年度プロジェクト研究

<共同研究プロジェクト>

インボイス制度が中小企業の会計業務に与えた影響の分析	商 経 学 科	宗田 健一	19
電子帳簿保存法が中小企業の会計業務に与えた影響の分析	商 経 学 科	宗田 健一	19
ICTによる文化継承	商経学科	岡村 俊彦/倉重 賢治	19
ヤクシカのジビエとしての生産状況の調査	生活科学科	中島 一喜/多田 司	20

<個人プロジェクト>

北海道並びに全国における障害児の高校進学状況および高校における教育内容	商 経 学 科	田口 康明	20
奄美大島・泥染めによる美術作品の制作	生活科学科	北 一浩	21

■研究・社会活動報告

2024年度 鹿児島県立短期大学教員 研究社会活動実績一覧			22
-------------------------------------	--	--	----

■巻頭言

教育の質保証と魅力ある県立短期大学づくり

学長 飯干 明

第3期認証評価と外部評価

認証評価制度は、中央教育審議会の答申「大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について」の提言をうけ、2004年の学校教育法改正によりスタートしたもので、短期大学や高等専門学校を含む全ての国公私立の大学等が、7年ごとに文部科学大臣の認証をうけた認証評価機関による認証評価を受けることが義務づけられている。本学は、2010年に第1期認証評価を、2017年に第2期認証評価を、それぞれ大学基準協会で受審し、いずれも短期大学基準に適合しているとの認定を受けた。第2期で認定された期間は2025年3月31日までとなっていたため、2024年に第3期認証評価を受審することになっていた。

第3期認証評価の大きな特徴は、大学の教育の質を保証するために、内部質保証のシステムを重視した評価が行われることである。すなわち、大学内部での質保証の仕組みを構築し、適切に運用されているのかを問われることから、本学では2022年11月に自己評価・将来構想委員会のもとに内部質保証部会を設置し、内部質保証要綱を定めることで質保証に取り組んできた。そして、2023年12月に「自己点検・評価報告書」を作成して大学基準協会に提出し、同協会による書類審査を経て2024年3月に改訂版を提出するとともに、同年10月には実地調査を受け、今年度末に審査結果が通達されるとみられる。なお、「自己点検・評価報告書」については、外部評価委員会による評価をうけることになっているので、外部評価委員会での審議を経て、2024年3月に「外部評価委員会報告書」が提出された。

県立短期大学の課題と取組

本学の課題の一つである定員割れの対策として、学校推薦型選抜入試において、令和6年度から県内に本校を有する受験者も応募可能な全国枠を文文学科と生活科学科で導入し、令和7年度の入試では商経学科も導入している。

鹿児島県が2024年2月に策定した第4期教育振興基本計画における「魅力ある県立短期大学づくり」では、「グローバル化」と「高度情報化」に対応する教育が求められている。「グローバル化」

への対応については、文文学科英語英文学専攻では学生のニーズや学力の変化に対応するため、令和7年度からカリキュラムを改訂し実施する。なお、グローバル化については、ふるさと納税制度を活用した「県立短期大学応援プロジェクト」の寄附金を2024年度より活用することが可能になったので、コロナ禍で中断していたハワイ語学研修を支援するとともに、全ての学科の学生が教科外でも英語を学習できるようAIを活用したアプリの導入に支援した。ハワイ語学研修には、英語英文学専攻の学生のほかに、日本文学専攻や生活科学専攻の学生も参加したが、全員が英語学習のアプリで学習していたことから、帰国後の語学研修報告会では、全員が英語で発表し質問に答えることができた。また、教育基本計画に記載されている「高度情報化」に関しては、令和7年度より、教養教育における情報科目で、「数理・データサイエンス・AI」に関する内容についても講義することになっている。

これからの魅力ある県短づくり

これまでと同様に、県立短大で主体的に取り組んでいくが、大学基準協会による認証評価の結果や、外部評価委員会が作成した「外部評価委員会報告書」に記載された、「改善を要する点」や「提言」を参考にしながら、本学の課題解決に取り組む必要がある。なお、少子化等の影響で本学の受験者数が減少傾向にあり、定員割れする学科がみられる状況をふまえ、鹿児島県は、2024年4月に「魅力ある県立短期大学づくり検討委員会」を設置した。今年度末には、同委員会から提言が出されるとみられるので、その提言についても参考にしながら、魅力ある県短づくりを進めていく必要がある。

大学基準協会により2025年度から実施される第4期認証評価では、学習成果を中心に据えた内部質保証の実質性が重視される。そのために、学生に必要な能力を明確にするとともに、それに基づく教育課程の整備や実施、達成度の把握、教育システムの検証と改善を行うことが求められる。したがって、専門教育や教養教育における学習成果として、どのような知識や技能を習得したかを測定し、レーダーチャートなどで可視化する取り組みを強化していくことも、魅力ある県短づくりには欠かせないであろう。

■退任の挨拶

県短、退任しますが…

生活科学科 川島 茂

東京から鹿児島に着任し、建築設計実務畑から本学常勤教員となったのが2016年春なので、県立短大を起点とし、鹿児島で9年を過ごしたことになります。まったく縁もゆかりもないところから、本学教職員のみなさまと学生はもちろんのこと、県内他大学等の先生方や鹿児島のあまりにたくさんの方々にお導きいただき、お支えいただいたゆえに、そこにとどまった時間を超えて、とても貴重な機会の数々に巡りあい、経験させていただくことができました。これぞ感謝と、ありがたく思う気持ちは尽きません。

その間、研究指導に携わったゼミ生が62名卒業し、就職や四年生大学編入等により、うち31名が県外へと歩みを進めました。本学にとっても過去実績のない進路ばかりに、学生とともに戸惑いは多々、右往左往。そんな混乱も、多様化社会のなかにあり、鹿児島県の学卒者県外就職率と概ね重なるところで、とても自然なことと、いまどきだったのでしょう。とにかく、地方都市では県外流出を懸念する話題を耳にする訳ですが、それは私自身を含む「おとな」たちが若年世代に選ばれる魅力ある「人」となり、「地域」を育てればよいことで、学生らは存分に自らの選択肢と世界を勝手気ままに広げてくれるべきであろうと思い、その将来を妨げることがあってはならぬと、彼らの背を見送っておりました。ましてや、今となっては新幹線やLCCで気軽に全国に赴け、通信を駆使した遠隔活動も一般的になり、彼らにとってはますます県境は薄く、国境すらも曖昧に世界を行き来するようになるのであろうと、相変わらずに諍いと歪み合いのつづく世界をむすんでくれやしないかと、密かに願っておりました。さてさて、そのような都合よく描く未来が訪れるか否かはわかりませんが、少なくともそう思う私自身も彼らに遅れをとらぬよう、恥じぬよう、どこへなりへと渡る心構えを実践すべく、またしてもこの度、縁もゆかりもない地へ向かうことになりました。鹿児島に少々距離をとり日々をすごすこととなりますが、同じ日本の一員であり、ひとつのかけがえのない地球の人で、動物として、生物であるではないかと思っただけだと、取り立てる出来事でもない聞き流し、ときには出会うかもしれ

ぬそのときに、肩でも叩き、声を掛けていただけますと幸いです。それでは、いってまいります。みなさま、何卒お元気で。

■新任の挨拶

イイ声 イイ顔 イイ動き
生活科学科 浜田 幸史

「こんなの初めて…」「これまで〇〇は嫌い／苦手だったけど…」「□□さんがこんな声かけしてくれて…」生涯スポーツ実習において見聞きする、受講生の皆さんのコメントで特に嬉しいものです。

「そんなの知らなかった…」「これまで考えたことなかったけど…」「□□さんがそんな考えしているのを知って…」スポーツ健康論，健康管理概論において見聞きする，受講生の皆さんのコメントで特に嬉しいものです。

いずれも共通して「楽しかった」「おもしろかった」「勉強になった」というポジティブな言葉，「ありがとう…」をはじめとする感謝の意を表す言葉が続きます。

授業を振り返ると，場を共にした方のイイ声が飛び交い，互いにイイ顔，イイ動きをしている場面が目には浮かびます。何だか幸せな気持ちになります。

そのようなイイ声，イイ顔，イイ動きをより多く見聞きたいので，授業づくりにおける工夫改善を図り続けたいと思います。また，それらをよりよく引き出したいので，学内ですれ違う方には，こちらから声かけ・挨拶をし続けたいと思います。縁あって県短に集った者として，共にイイひとときをつくり，活動そのものを楽しんでいきましょう。

私は，鹿児島県の小学校で9年，中学校で10年，大学で6年の教員生活を経て，2024年4月に着任しました。これまでの教育・研究活動で身に付けた指導技術，教育界をはじめ様々な分野で活躍する方々との人的ネットワークを生かし，自他のよさを大切にしながら，県短生一人一人のイイ声，イイ顔，イイ動きを誘発できるよう，また，卒業後もイイ感じで過ごしていつてもらえるよう，チカラを尽くしていきたいです。

県短教員の中で，唯一，全学生と関わらせてもらえることに感謝し，皆さんが生涯にわたって心身の健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを継続することができるように，授業内外で働きかけていきます。どうぞよろしくお願いします。

新任のご挨拶

生活科学科 中島 一喜

2024年4月に生活科学科食物栄養専攻に着任しました中島一喜と申します。どうぞ，よろしくお願い致します。私は，国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の研究者として，22年間，食肉生産に関する研究を行ってきました。食肉産業における最大の目的は動物タンパク質の生産であり，正味のタンパク質生産量はタンパク質の合成量と分解量の差です。さらに，骨格筋におけるタンパク質合成と分解の制御が可能になれば，正味のタンパク質生産量が増加し，効率的な食肉生産技術の開発につながります。そこで，エネルギー効率が生産に直結する食肉産業においては，タンパク質分解を抑制することで，さらなる生産向上に貢献できると考え研究をおこなってきました。

また，わが国では，鶏の脂肪肝を高級な食材の“白肝（しらぎも）”として食しており，この白肝は偶然できたものを流通させています。そこで，白肝を安定的に生産する技術として，低タンパク質飼料を給与することで，肝臓の脂肪含量を増加させる方法を開発し，生産現場で，きわめて短期間で白肝を生産することに成功しました。さらに，長年，生化学者として，楽しく仕事をしてまいりました。

さて，食物栄養専攻では，食品学，食品衛生学，また，食品学ならびに食品衛生学実験を担当します。私は，これまでの教育研究の過程で，好奇心を育てることこそが重要であると思っております。好奇心が，情熱というエネルギーへ変換され，そのエネルギーが行動力ならびに創造力を生み，そして，この創造力がまた好奇心につながり，自ら学び，探究するサイクルができるのではないかと私はこのサイクルを常に意識して，学生自身に好奇心の基となる気付きを起こす教育を行いたいと思っています。

最後に，国立研究開発法人の研究職員としての経験とスキルを活かし，研究活動のさらなる活性化のために研究者としても取り組み，また，学生，組織，地域，社会ならびに科学の進歩のために貢献していきたいと考えております。

着任のご挨拶
商経学科 藤野 博行

4月1日に法学担当として着任いたしました。昨年度まで、福岡県の私大法学部で14年間ほど勤めていました。前職の担当科目は民法でしたが、2010年から2014年度までは文部科学省「就業力育成支援事業」と、その後継事業である「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」のコーディネーターを兼務していたこともあり、学生のリテラシー・コンピテンシー向上のための文章表現科目や地域連携科目の立ち上げや担当もしていました。行きがかり上、異なる内容の科目を複数持っていましたが、最も好きだったのは専門の民法ではなく地域連携科目でした。

ある年、フィールドにしていた商店街の組合長から「お化け屋敷を企画してよ」と言われ、たまたま市の助成金を取得できたことや、コロナ禍による行動規制の緩和もあり、挑戦することにしたのです。企画・準備・運営はすべて学生任せ。私の主な仕事は、学生が困ったときのアドバイザー役と予算のやりくり。そして迎えたイベント当日。事前に学生がチラシをポスティングしていたこともあり会場は大行列。想定外の来場者に学生は休む暇なく動きます。学生の休憩シフトはすぐに崩壊。開催に当たり市役所からは感染対策の徹底を厳命されていたため、その対応もしなければなりません。しかし、そんな状況でも、学生らは自身で機転を利かせ、互いにフォローして切り抜けます。終了時間を延長ため撤収は夜遅くになりましたが、参加した学生全員が達成感にあふれていました。また、そのような姿を誇らしく感じました。

今年の4月から、本学でお世話になっています。本学の学生はとても真面目な印象ですが、いい意味での「やんちゃさ」がもう少しあれば良いのにと思うことが時々あります。学生に「物事に対して（自主的ではなく）自律的に取り組む」「答えのない課題に向き合い、解決する力」「困難に対して自分で考えて乗り越える」力を身に付けてほしいと思い、現在模索中です。どうぞよろしくお願いいたします。

新任のご挨拶
商経学科 前田 千春

2024年4月に商経学科に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。出身は大阪ですが、大学入学から沖縄で暮らし、そして就職で神戸に移り住み、今年度から初めて鹿児島に住むことになりました。鹿児島には以前から旅行や実習で毎年のように来ており、鹿児島の自然も料理も温泉も好きだったので、鹿児島で暮らすことができ嬉しく思っています。

大学は農学部で学び、専門は森林政策学・林業経済学です。主な研究テーマは海外における森林の持続可能な管理制度で、インドネシアやトルコの森林管理制度についての研究を進めてきました。インドネシアのジャワ島では、国有林における住民共同管理の導入が農林家経済に与える影響についての研究を行っています。研究のための調査はフィールドワークが中心だったので、大学院生の時には長期でジャワ島の農山村に滞在して、農林家の方の家に泊まりながら聞き取り調査を実施していました。そしてトルコでは、国有林における不法占拠村落の実態と森林共同管理の可能性に関する研究を行っています。今後はネパールなど南アジアでの研究を計画しており、各国の比較を通じて持続可能な森林管理制度を考えていく所存です。また、近年は日本の農山村や離島の地域づくり、農林業の発展を軸にした地域振興についての研究も行っており、地域における木材市場の役割について、世界自然遺産登録が小規模林業および周辺集落に与える影響といった研究を進めています。将来的には県短の紀要等にもその成果を発表できればと考えております。

商経学科では「地域経済論」など地域関連の科目を担当しています。学生の自ら考える力や協働する力を伸ばしたいと思い、講義ではグループワークを取り入れ、ゼミでは地域と連携したフィールドワークを実施しています。日本、そして鹿児島の今後の地域づくりについて、農山村や離島の維持・発展に向けた方策について、考える機会を提供できればと思います。教育と研究を通して、本学そして鹿児島県に貢献できるよう、日々努めてまいります。

■留学生手記

夢のような鹿児島

南京農業大学2年

任 静琪（じん・せいき）

私は今年4月に南京農業大学から交換留学生として鹿児島に参りました。月日が経つのが早いもので、鹿児島での留学生活もアツという間に過ぎて、残りわずかとなりました。日本に初めて来た日のことを振り返ると、一場面一場面が映画のように頭に浮かびます。

鹿児島県立短期大学での生活は、歓迎式から始まりました。学長と先生方の歓迎のご挨拶からは、留学生が大切にされていると感じました。その後、学長と一緒に食事をし、さらに親しみと温かさを感じました。

県短での最初の授業は竹本先生の授業でした。はじめての日本の大学の授業であり、先生の詳しく丁寧な板書やグループディスカッションの授業形式に驚きました。体育の授業では、スポーツの楽しさを実感し、様々なスポーツに挑戦しました。なかでも初めて野球という新しいスポーツに触れたことは私にとっては新鮮で格別でした。英語の授業を通じて、日本の歴史と文化を学びました。書道の授業や木戸先生の授業では、日中両国の文化の共通点を痛感しました。

最も感謝しているのは、小亀先生と楊先生です。日本語の基礎が弱いため、授業内容を理解するのが大変でした。小亀先生は特別に文法の指導をしてくださり、宿題を通して文法を学び、毎週授業外の時間を使って指導をしてくださいました。楊先生は私の日本語能力が不足している状況を非常に理解してくださり、ゼミの授業では状況に応じて通常の内容とは異なる課題を出してくださいました。また、授業後も楊先生は日常生活において、日本の茶道の体験をさせてくれるなど、いろいろしてくださいました。小亀先生と楊先生には本当に感謝しています。

鹿児島では、新しい友達を作り、独立した生活にも慣れました。来日前は、言葉の壁や文化の違いで友達を作るのは難しいのではないかと心配していました。しかし、幸いにも入学早々に優しく親切なクラスメートと出会い、良い友達もできました。彼女たちはよく日本のお菓子をシェアしてくれたり、一緒に食事やカラオケに誘ってくれたりしていました。5月の連休に桜島に遊びにも

行きました。また、入居している国際交流センターでは、中国やベトナム、ペルーなど各国から来た人たちと知り合い、友達の温かさを感じました。このように様々な人たちと触れ合い、友人たちの手助けをいただいで、一人暮らしにも次第に慣れてきました。スーパーでの買い物が上手になり、美味しい料理を作ることができるようになり、公共交通機関も使いこなせるようになり、大阪への一人旅を楽しむまでできるようになりました。

鹿児島での交換留学生活は夢のようでした。4月の華麗で幻想的な錦江湾花火大会、広々とした城山展望台から望む碧い海や青空にそびえ立つ活火山の桜島、7月の賑やかな夏祭り……学んだ知識もさることながら、ここでの4ヶ月という短い生活で得られた様々な経験は、私にとって、一生忘れられない美しい思い出となるでしょう。

二十歳で県短にいたこの年 南京農業大学3年

孫 子豪（そん・しこう）

二十歳を迎えたこの年、私は海に近いところで生活していた。毎晩波の音とともに眠りにつくとき、私はよく昔を思い出す。10代の頃から日本の文化が大好きだった私は、日本で生活することに憧れていた。今年、鹿児島県立短期大学の交換留学生として実際に日本の地に足を踏み入れることができた。私は多くのすばらしいことを経験し、これらの思い出は私の心の中に深く根を張り、永遠にきらびやかな花を咲かせる。

日本に来て、ここでの生活のすべてを私は新鮮に感じた。日本の映画やアニメのシーンが目につくかぶようで、とても幸せだった。ここはどこも清潔で、みんなが無意識のうちに秩序を守っている。日本に来て初日、道を渡る時に遠く離れていてもタクシーの運転手さんが車のスピードを落として止まり、先に渡らせてくれたことで今までにない優しさを実感した。私も人に優しくしようと思うようになり、それはまるで私の心を開く鍵のようだった。

学校に来てからも、私は同様に先生と学生たちからの配慮を感じた。初めて校舎に入って、私は学校の環境に心を惹かれた。悠久の歴史の息吹が顔を出してきて、茂った静かな木々は重厚な学術の系譜が根を張っているように感じた。授業は、先生たちが熱心に講義をしてくださり、雰囲気もとてもよくて楽しかった。私は中国では学べないことをたくさん学び、日本文学への理解をさらに深めた。県短で過ごした最初の頃、私は日本語をうまく話すことができなかったが、心優しく熱心な小亀先生は、私と任静琪（じん・せいき）さんのために私たちの授業の余暇に日本語を勉強するのを助けてくださったので、とても勉強になった。小亀先生は私と年齢が近く、私に日本語について多くの知識を教えてくれただけでなく、若い頃、私たちは自分の好きな分野に十分な情熱とまじめさを注ぎ込むべきだと気づかせてくださった。彼は私の人生の道案内のようだった。楊先生と土肥先生はいつも私たち留学生の生活と学習状態を気にかけてくださっていた。このことはいつも私の心を温かくしてくれた。竹本先生の授業は私に日本の小説に対してもっと深い情熱を持たせてくれた。彼が授業中に演奏したマンドリンの音は、夢

や幻のように悠揚で、優雅で、私は一生忘れることがないだろう。木戸先生は私に古典文学の知識を教えてくれただけでなく、楊先生と一緒に私たち留学生を茶道の体験イベントに招待してくださったこともあった。その日先生は美しく端正な着物を着ていた。そして本で学んだだけだった茶道文化を実際に目にすることができ、思い出すたびに映画を見ているような感覚になる。Mr.Martinezの授業は生き生きとして面白く、授業後に時折彼と交わした談話も私を楽しませてくれた。クラスメートたちとの交流もとても楽しく、みんなとてもフレンドリーだった。この1年間私たちは一緒に体育祭や学園祭に参加し、勉強でも生活でも多くの素晴らしい思い出をつくった。夏休みには、小亀先生のゼミ旅行に参加して、私はみんなと指宿に行った。指宿の海はうっとりするほど美しく、一生忘れられない旅行となった。

授業の合間に私はいろいろな場所に行ったが、個人的な経験を積み重ねることで日本文化に対する実感を豊かにした。私は国際交流センターに住んでいて、いろいろな文化体験イベントに参加した。一番忘れられないのはおはら祭りだ。当日は他の外国人の友人たちとお揃いの衣装を着て、賑わう街で伝統的な音楽に合わせて、日本の伝統的な踊りを踊った。このような思い出は非常に多く、これらは私の人生の中で最も貴重な経験になるだろう。

二十歳の鹿児島での一年を振り返ってみると、ほとんど楽しい瞬間に満ちていた。このような経験はもう一生ないかもしれないと思うが、だからこそ、このすべてがこんなに貴重に思えて、忘れられない。私はここで経験したすべてのことと、私が出会ったすべての人への感謝を永遠に忘れない。



鹿児島之美

南京農業大学3年

郭 若臣（かく・じゃくしん）

「あの日見渡した渚を、今も思い出すんだ。砂の上に刻んだ言葉 君の後ろ姿。」

夏秋の交わる頃、歌声に導かれて、私は鹿児島という美しい海辺の街に来た。これまで日本に行ったことがなかった私にとって、すべてが新鮮に感じられた。大学に入ってから、私はずっと広範囲に日本語や日本文化を学んできたが、これまで書籍やビデオで見ていたことが、今日、現実のものとなった。日本は今、絶えず私にその比類のない魅力を放ち続けている。ここではすべてが新鮮で、時には挑戦的だが、同時に貴重な経験と素晴らしい思い出を得ることができた。

私は鹿児島県立短期大学で日本語と日本文化を学んでいる。初めてここに来たとき、私はすべてに対して好奇心でいっぱいだった。国内で数年間日本語を学んできたが、完全に日本語の環境に浸かる生活には少し戸惑った。最初は言葉がうまく通じず、表現がうまくできないことが多かったが、鹿児島の友達や先生たちはとても温かく励ましてくれた。クラスメートはとても親切で、忍耐強く話してくれた。先生たちはとても優しく、いつも私が困ったときに助けてくれて、勇気を与えてくれた。このような支えがあったおかげで、毎日が楽しみになり、学び続けることができた。

学びだけでなく、鹿児島の自然の美しさにも心を奪われた。鹿児島の象徴である桜島火山は、私にとっていつも圧倒的な存在だ。晴れの日でも曇りの日でも、桜島は静かにこの街を見守っているように感じ、安らぎを与えてくれる。休暇には友達と一緒に海辺を散歩したり、近くの温泉でリラックスしたりしている。鹿児島は温泉が豊富で、疲れを癒すだけでなく、大自然の力を感じることができる。

鹿児島での生活の中で、私はとても幸運にも地元で長い歴史を誇るおはら祭や花火大会に出会った。「パッと光って咲いた、花火を見ていた、きっとまだ、終わらない夏が。」街中で和服や武士の鎧など、さまざまな日本の伝統的な衣装を着た人々が踊る姿を見たり、夜空に華麗で煌びやかな花火が咲くのを見たりすることができた。これらすべてが、まるで私の目の前に広がる一つの芸術作品のようで、私は他の皆さんと共に日本文化の

美しさを分かち合うことができた。

鹿児島での毎日は、私に日本の文化や生活習慣について深く学ばせてくれた。鹿児島の人は穏やかな言葉遣いをしながらも、仕事や学び、生活に対して非常に真剣で、細やかな気配りを忘れない。この精神は私に大きな影響を与え、留学生活の中で知識だけでなく、人生の挑戦にどう向き合うかを学んだ。

留学生活の思い出を振り返ると、とても幸運だったと感じる。鹿児島は私に知識を与え、言語能力を向上させてくれただけでなく、人間関係の中で貴重な人生経験も教えてくれた。一人一人のクラスメート、先生、友人たちが、鹿児島の温かさと人情を感じさせてくれた。



■海外研修報告

ハワイ大学・カピオラニ・コミュニティ カレッジでの海外研修報告

- 実施日：2024年9月10日～25日
- 場 所：ハワイ大学カピオラニコミュニティ
カレッジ
- 参加者：3学科から10名の学生が参加
- 引率者：石井英里子、山口祐司
- 研修内容：ESL（英語集中プログラム）や
異文化交流、ハワイの文化研修

I love Aloha spirit! 文学科1年 大重 優梨菜

私は16日間にわたるハワイ研修プログラムに参加して、多くのことを感じ、考えることができ、とても貴重な経験と思い出ができた。今回は私にとって3度目の海外渡航であったが、ハワイは初めてであった。幼いころから憧れていた、様々なメディアでもよく目にしていた場所に行けることが決まり、準備期間からとても楽しみであった。長いフライトを終えてから空港から出た際の景色を見て気持ちがとても高揚したことは、今でも鮮明に記憶に残っている。

到着した翌日から、カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修プログラムが幕を開けた。1日目から早速ハワイの大学についての説明をしていただき、午後はウクレレのレクチャーを受けた。初めてウクレレに触れたがわかりやすい説明でとても楽しい時間を過ごせた。レクチャーの最後に、習ったコードを使って全員で曲を演奏した。一人ひとり完璧ではなかったが全員があわせて演奏するとしっかり曲ができあがっている気がしてとても嬉しかった。

2日目から研修中の午前中は、ほぼ毎日英語の授業があり様々なことを学んだ。具体的には、文章の書き方、発表するプレゼンテーションの準備、現地の人が使う単語の使い方、文章読解などだ。プログラムの中で予定されているイベントの準備や事前の予習を行うことができた。特に印象的なことは、“Affirmation Activity”だ。初回の授業で配布された、恥ずかしがらずに自信をもって感情を添えながら人前で話すための活動であった。この活動を通じて人前で堂々と話することに、

より慣れることができたと思う。担当の先生は様々なことを教えてくださり、英語だけでの会話で大変なこともあったがプログラム後半にはリスニング力の向上を感じた。

午後は毎日異なる内容が組まれておりとても有意義な時間を過ごせた。特に“Aloha Workshop”は私にとって今回のプログラムで1番興味深い内容だった。ハワイの起源について教えてもらった際に、日本の起源について聞かれた。しかし、曖昧な答えしかできず、まずは日本についてもっと学ぶべきだと思い知らされる良いきっかけになった。ハワイ原住民の人々の生活のための生活用品や遊び道具、衣類やアクセサリを実際に手にして見るすることができた。また、ハワイの言葉を知り、それらから何を重んじているのか分かった気がする。彼らは、自分たちが生きているその環境や周囲の人に感謝を示し、コミュニティのなかでいかに自分が役に立つかを大切にしていると思った。とても素晴らしい考えであり、感銘を受けた。フラダンスのレクチャーのなかでも、動作それぞれに意味があり、歴史や環境に対する感謝を表していることを知り、より理解が深まった。さらに、踊りながらつい笑みをこぼしてしまうフラダンスの楽しさに気が付いた。他の日程でもとても貴重な経験ができて、多くのことを学んだ。

学校がない自由行動の日には、計画を立ててマーケットに行ってみたり、早朝ハイキングに行ったり、ツアーに参加したり買い物に行ったりしてとても充実した日々を過ごした。日本とは「普通」が違う未知の、異国の地で過ごした濃いつまらぬ2週間の出来事は一生ものの素晴らしい経験になった。このプログラムに今回のメンバーとともに参加できて、大いに自分自身の成長を感じ、うれしく思う。

ハワイ研修を通して学んだこと 生活科学科1年 泊口 結愛

ハワイ研修では、言語を学ぶことはもちろん、文化の違いや歴史に対する学びや、街の人々との交流など、普段体験することのできない数多くの貴重な体験をすることができました。

初めに飛行機を降り、辺りを見渡せば広大な山々に見慣れない標識、そして周りを飛び交う英語…すべてが新鮮でした。街を歩けば地域の方々が手を振ってくださったり、挨拶をしてくださ

たりと街の明るさに魅了されながら、ついに研修が始まったのだなと期待でいっぱいでした。

次の日から行われたカピオラニ・コミュニティ・カレッジでの授業は、日本の従来の先生に教えてもらう授業とは大きく異なり、主体性が最も重要視される授業だなと感じました。即興で自分の考えを英語で伝えることはとても難しく、緊張して最初はなかなかうまく話せませんでした。それでも、先生からの質問に必死に答えたり、友達と一緒に会話したりしていくうちに、最後は自分から先生に質問する勇気が持てるようになり、内気なところから成長できたように思います。また、ハワイの歴史に残る裁判を実際の裁判所で模擬体験してみたり、宮殿や戦艦、美術館など様々な歴史を学べる場所へ行ってみたりとハワイの歴史を、実物を目で見て雰囲気も感じながら学ぶことができました。思いの外、日本が関係していたり似ていると思う発見が多くあったりとより親しみを持つことができました。観光地として人気で明るいイメージだけでなく、神を重んじるハワイ独特の文化の積み重ねを学ぶことができました。また、紆余曲折を経て、今のハワイがあるのだなと実感しました。

授業の後や休日は友達と様々な観光地やお店に出かけました。移動手段のバスひとつにしても見知らぬ乗客どうしがフレンドリーに話し出す、日本とは全く違う雰囲気に感動しました。多くの人が私たちにハワイに来てみた感想や、観光地に関する情報などたくさん話をしてくださり、私の手振りが多い英語もくみ取ってもらい楽しくコミュニケーションをとることができました。躊躇わず何か話してみることはやはり大切だなと感じるとともに、それが伝わったことの嬉しさが自信に繋がり、さらに英語への関心が高まりました。

私が特に文化の違いを感じられて楽しかった出来事は、エレベーターの中で会話することです。日本では知らない人問い合わせると気まずささえ感じる時間ですが、ハワイでは居合わせた人全員が会話に参加して談笑している様子が一期一会を大切にしている感じがして大好きでした。最後には皆「Have a nice day!!」と笑顔でエレベーターを後にする姿がとても明るくて、そんな些細な時間さえ楽しくて幸せな気持ちになりました。

ハワイ研修を通して感じたこと、得たことは今後自分が生活を送っていくうえで物事をうまく進めていくために大切なスタンスになるなと感じま

した。また、もっと英語という言語や他国の文化に興味を湧き、自分の価値観や考え方がより柔軟なものになり、一回りも二回りも成長したように感じます。心の底から行ってよかった、最高の経験だった、と思えるかけがえのない研修でした。

全てが有意義だった異文化体験 文学科1年 堀 碧記

長時間のフライトを終えた先には、ハワイの素晴らしい風景が広がっていました。ここから、待ちに待った2週間が始まりました。

私たちは、主に平日の午前中、カピオラニ・コミュニティ・カレッジで英語の授業を受けました。そこでは、英語で堂々と発表する力を身につけることができました。午後はハワイの文化体験で、ウクレレやその他の楽器を演奏したり、「レイ」という素敵な花の冠を作ったりしました。他にも、海外のバンドの生演奏にうっとりとして聴き入ったり、観光地を巡ったりすることができてとても楽しかったです。特に、戦艦ミズーリ記念館を訪問したのが印象的でした。当時敵国であったアメリカの視点から戦争について学ぶこと、そして自分の目で見て考えるということは、私がこのハワイ研修で達成したい一つの目標でした。実際、見学や説明から多くのことを勉強しました。日本は1945年8月14日にポツダム宣言を受諾し、それから約3週間後の9月20日に、東京湾に浮かぶ米国戦艦ミズーリ号で連合国に対する降伏文書に調印しました。その時の降伏文書のレプリカを、私たちは調印された艦上で見てきました。当時調印された降伏文書は2通あり、1通はアメリカが所有し、もう1通は日本が所有しました。私は並べられた2通の降伏文書のレプリカを見比べた際に、明らかな違いがあることに気づきました。アメリカが保管している降伏文書は調印者の名前が整って並び、見栄えの良いものでした。一方で、日本に保管されている降伏文書は誤った表記が多く、訂正箇所も目立っていました。驚くべきは、このような乱雑なものが公文書として認められたこと、そして同一文書であるはずの2通の公文書の見た目が明らかに異なっているのにも関わらず、この事実が注目されることがほとんどなかったことです。私はこれらの歴史的事実について、非常に不思議で興味深いものであると感じました。

また、学校のプログラム以外でも英語力を伸ば

す機会はたくさんありました。バスやエレベーターでは、現地の人たちにたくさん話しかけてもらいました。最初は緊張や動揺がありましたが、親切で優しい人たちがばかりだったので、すぐに打ち解けて楽しみながら会話をすることができました。相手の英語が聞き取れたときや、自分の英語が伝わった時はとても嬉しかったです。放課後や休日も、行った先で現地の人たちと積極的なコミュニケーションをとりながら、娯楽を楽しみました。カピオラニ・コミュニティ・カレッジでは、初日の放課後にレクリエーションに参加して学生と交流を深めたり、土曜日に学内で開催される朝市に行ったりするなど、プログラム外の楽しみもありました。さらに、ショッピングや食事を満喫したり、水族館や動物園では日本にはいない生き物を見たりして、全てが有意義な時間でした。

今回のハワイ研修に参加したのは、私にとって本当に貴重な経験でした。毎日が充実していて、自分自身を成長させてくれるのを感じました。この経験を、何らかの形で今後に生かしていければと思います。

初めての海外研修 文学科1年 吉村 有結

2024年の9月、私は人生で初めて海外研修に参加した。2週間という期間は行く前は果てしなく長いように感じた。というのも、私は初めての海外研修に対して、『2週間無事に過ごせるのだろうか』という不安しかなかったからだ。その不安も相まってか、普段は乗り物酔いをしないのに飛行機の乗る前に酔い止めを買ってしまった。とにかく、初めての海外研修は緊張から始まった。

約10時間のフライトを経て、ハワイのダニエル・K・イノウエ国際空港に着いた。初日は、ハワイがどういう雰囲気なのかを感じるのに精いっぱい1日で、聞こえてくる言葉が日本語でなく英語という当たり前のことにも驚いたほどだ。翌日、研修先のハワイ・カピオラニ・コミュニティカレッジ（以下、KCCと表記）にて、今後のスケジュールなどのオリエンテーションを行った。そのスケジュールの内容は、ハワイの文化、歴史を深く学べる内容となっていた。2日目以降は、平日の午前中はKCCにて、ハワイの文化、歴史について学び、午後は学んだことを実際にフィールドワークなどで体験してみるという流れで進み、

休日は自由散策だった。すべて紹介したいが、今回だけでは紹介しきれない量の出来事があったので、自分の中で選出したものをここで紹介する。

1つ目は、KCCのプログラムの一環で体験した、真珠湾見学だ。真珠湾といえば、太平洋戦争の引き金となった、日本軍による奇襲攻撃（真珠湾攻撃）が起こった場所だ。現在、真珠湾には戦時中に活躍したアメリカの戦艦、ミズーリとアリゾナが展示されている。ミズーリは艦内を見学できるが、アリゾナの方は、真珠湾攻撃によって沈没しており、上から眺めるのみ可能だ。今回の研修では、ミズーリを見学した。艦内は思ったより狭く、構造も複雑で、迷子になりそうだった。当時の生活感の色濃く残っており、まるでつい先日まで使われていたかのような感覚だった。ミズーリの特徴といえばやはり、その巨大な主砲だ。巨大な船には、強力な武器という大戦時の考えの象徴するものだと私は感じた。今回の研修を通して実際にお目にかかれて、とてもいい経験だった。

2つ目は、ダイヤモンドヘッドだ。これは、休日に友人3人と登った。山頂までの道のりは登山初心者からしたら過酷だった。観光地とはいえ道は十分に舗装されておらず、足を滑らせそうになることが多々あった。50分ほどで山頂にたどり着き、自分はホノルルの街を虹とともに一望していた。その光景は、登山の疲れを一掃させた。そのおかげか、下山の道のりは不思議と足が軽かった。これは補足だが、ダイヤモンドヘッドに登山する際は、滑らない靴はもちろんのこと、こまめな休憩をしながらの登山をお勧めする。

以上が、自分が選出した出来事だ。最後に、海外に行くにあたって気を付けるべきことを紹介する。

それは、海外保険の大事さだ。ご存じの方もいるだろうが、アメリカの医療費は全額自己負担となるため、風邪の診察を受けるだけでも軽く日本円で1～2万円程度の費用がかかる。この話をしているのは、自分自身がこの経験をし、海外保険に加入していなければ、多額の医療費を支払うところだったからである。自分は普段風邪をめったにひかない体質ではあるが、それでも海外では予期せぬ事態が起こり得る。「短期間なら大丈夫」という安易な考えで海外保険に加入しないのは危険だ。

今回の研修では、英語の学習だけではなく交通マナー、チップ文化、日本語以外でのコミュニ

ケーションの実践などの社会性についても学んだと
感じる。飛行機が怖い、外国が怖いと思っていた
自分をまた外国に行きたいと思わせてくれた今回



の研修は私にとって大きな変化を与えてくれたと
思っている。



2024年度鹿児島県立短期大学公開講座（鹿児島県民大学連携講座）

「食と健康」

文学科 遠峯 伸一郎

本年度の公開講座は、生活科学科の教員各々の専門領域から、年代を問わず常に高い関心が寄せられる「食と健康」をテーマにして、5月18日から7月6日まで毎週土曜日の午後、全8回にわたって実施された。受講登録者104名、延べ受講者数624名の盛況であった。全8回のうち6回以上受講した74名には修了証が授与された。以下に、講座各回の担当者とテーマと講座概要を掲載する。

表1 各講座の担当者とテーマ

回	開催日	担当者	演題
1	5月18日	古川 那由太	美味しいだけじゃない！？ 酵母がもたらす恵み
2	5月25日	中西 智美	食えることへの心配り ～ special needsのある子供たちからの学び～
3	6月1日	木下 朋美	鹿児島の「茶いっぺ」で心も体も健康に
4	6月8日	多田 司	メリット、デメリットを知ろう！ 食品添加物
5	6月15日	中熊 美和	鹿児島の食文化～出汁を中心に～
6	6月22日	有村 恵美	健康寿命アップ～少し考えながら食べる～
7	6月29日	中島 一喜	食品成分の新しい機能
8	7月6日	浜田 幸史	食欲増進！健康増進！加齢を勉強！華麗に運動！

◇各講師の講座内容は次の通りである。

第1回 古川 那由太

酵母はパンやお酒等の発酵食品を作る微生物として広く知られているが、酵母が持つ栄養素やその効果についてはほとんど知られていない。そこで本講座では、酵母が持つ疲労回復効果や免疫力亢進効果、植物の生育促進効果等について実例を挙げながら解説するとともに、本学で新たに見いだされた「県短酵母」の特徴について紹介した。

第2回 中西 智美

食べたり飲んだりする摂食嚥下機能を「食べる機能」とし、小児期から高齢期まで食事を口から楽しむために、special needsのある子供たちの食事支援を例に取り上げ、摂食機能のしくみや発達について説明した。全てのライフステージにおいて、食えることを豊かにするための環境整備や配慮等について考察した。

第3回 木下 朋美

日本茶の歴史や、古くから伝わる徳之島の振り茶の習慣、松元・日置地区のはんず茶作りについて調査結果を元に解説した。また現在のかごしま茶の特徴を茶種や品種を通して解説し、お茶の淹れ方や茶殻の栄養成分および料理への利用法、ペットボトル茶との違い等を紹介した。喫茶文化を伝えながら心身の健康を維持しましょう。

第4回 多田 司

現在は飽食の時代といわれ、市場には多くの食品が出回っている。そんな中で、普段、何気なく口に入っている食品添加物。この食品添加物のメリット、デメリットについて実例を紹介しながら解説した。また、メリットについては実験を実演し、参加者に体感してもらうことで理解を深めてもらった。

第5回 中熊 美和

鹿児島県は、南北600kmにも及ぶ様々な地理的環境が豊かな食材を生み出し、特有の食文化が形成されている。鹿児島の食文化における出汁を中心に講座を行った。前半は日本及び鹿児島の食文化についてお話し、後半は実際に5種類の出汁（本枯れ節のかつお節だし、昆布だし、煮干しだし、干ししいたけだし、顆粒だし）を試飲していただき、官能評価を実施した。

第6回 有村 恵美

平均寿命、健康寿命、死因、エネルギー産生栄養素の変化、食習慣の変化などを示し、生活習慣病との関連要因について考察した。また、簡単な食生活チェックを実施し、がん罹患数・死亡数・関連要因、日本人のためのがん予防法、減塩のポイント、食物繊維アップ方法などについて説明した。最後に、食事療法に関する臨床・基礎研究を紹介し、食事の及ぼす影響・効果を具体的に示した。

第7回 中島一喜

食品の三次機能、健康機能食品、食品に含まれる成分の機能と健康への影響について紹介した。食品の三次機能とは、身体の生理機能を調節する機能であり、三次機能に効果を示す「機能性成分」について解説した。さらに、特定保健食品、栄養機能食品および機能性表示食品の違いについて解説し、食品中の機能性成分との関係について解説した。

第8回 浜田 幸史

加齢に伴い、様々な身体機能が低下、鈍化する。一方で、豊富な経験や知識をもとにした判断は高まるので、高齢になってから事を成す方も多くいる。より健やかに過ごすために、食習慣、運動習慣、生活習慣、ストレス対処等について見直すことができるとういことを示し、いろいろな演習に取り組んだ。

◇講座の最後にアンケート調査を実施し、64人から回答が得られた。以下ではアンケート結果のまとめを記す。

1. 今回の講座を知ったのは

①短大のホームページ	7
②県短からのお知らせ	11
③ポスター	9
④知人から	2
⑤新聞	33
⑥その他	0
無回答	2
2. 今回の講座は

①よかった	60
②ふつう	3
③よくなかった	0
無回答	1
3. 今回のテーマは

①よかった	61
②ふつう	1
③よくなかった	0
※ 無回答	2
4. 自由意見
 - * 何気なく毎日過ごしているようで、身体＝寿命 健康寿命に興味があり、これからの生活にプラスになればと思い受講いたしました。
 - * どの講座もとても興味深いものばかりで毎回楽しかったです。
 - * 知っていると思っていたが、くわしく細やかに説明があり深く知ることができた。
 - * いちばん身近なことなので、講座の申込に全く迷いがありませんでした。ただ、田植えの時期に重なり、欠席したのが悔やまれます。
 - * 農業高校で食品担当をしており、指導の参考になればと思い今回受講させていただきました。授業の内容と重なる部分もあり、大変参考になりました。
 - * 食品成分の新しい機能一研究者の意見をもっと聞きたかった。
 - * 日常生活で食への食品添加物の多さにおどろきました。これから気を付け食事をがんばって作りたいと思います。
 - * 食に対する考え方が変わった。

- * 興味深いテーマばかりで、毎回楽しく学ぶことができました。
- * 食に関する様々な情報を得ることができ、毎回楽しみに受講することができました。しつを極めることもありですが、このようにそれぞれのお話をきくのもよいですね。
- * 県短酵母が印象的でした。
- * 第5回鹿児島県の食文化（出汁を中心）がとても良かったです。毎日の食事に今さら考えを変えてしっかりと出汁を作るようになりました。第二回で Special needs のある子供たちへの気遣いにびっくりでした。
- * とても関心のあるテーマばかりでした。係の方々もとても親切でした。先生方の講義もユーモアなども入れられて親しみやすかった。これからは生涯学習の方にもがんばって欲しいと思います。
- * 食と健康生きている限り私は自分の歯でおいしいものを食べ続けたいと思います。食・運動・生きがいが必要であることが講座を通してわかりました。学ぶだけでなく、自分の生活に活かしたいと思います。
- * あふれる情報の中、判断するのは自分自身、先生方、それぞれの専門分野の講義で正しい知識を身に着けることができました。
- * ちょっと考えて、手軽に取り組むことが多くなった。
- * 講座を通して、普段の生活の中で、少しでも意識して、良いことを取り入れることができたので、とても良かったです。
- * 食と健康は人にとって最も大切なテーマ。死ぬ時まで関心をもつと思います。
- * 運動・栄養・休養の中で高齢になると特に大事なものと思う次第です。手を抜かず一食入魂で行きたいです。

- * 一番興味のあることなので、楽しみにしていました。全部の講座が終わり満足しております。ありがとうございました。
- * 生きていくうえで欠かすことのできない食事ですが、食だけでなく健康であることも大事です。食と健康は生活していくうえで欠かせないものであり、テーマとしても良かったと思います。
- * 毎日生活する中でいろいろ参考にできる講座で、大変ありがたい内容でした。教えて頂いたことを思い出しながら生活していきたいと思います。
- * はじめて公開講座を知り参加しました。久しぶりに学生気分になったようで大変楽しみな受講でした。先生方の熱心な講義に感謝です。

食と健康

かこしま県民大学連携講座

2024年度 鹿児島県立短期大学公開講座

【主催】令和6年度（2024～2025）第1期（第1回）11月10～11日（全2回）
 会場：鹿児島県立短期大学 1号館（第1回）第2号館（第2回）
 定員：40名（定員を超えた場合は、抽籤により抽選を行います。）
 募集期間：令和6年10月10日（水）～10月15日（火）
 対象者：一般市民（定員：40名）
 【申込方法】
 ①申込：氏名・年齢・電話番号のほか「公開講座申込書」を明記して、
 ②7月10～15日の平日で申し込んでください。
 〒900-0000 鹿児島県立短期大学 教務課
 E-mail: ksc@ksc.ac.jp
 〒900-0000 鹿児島県立短期大学 教務課

鹿児島県立短期大学

食は健康な生活の根幹となります。また、適切な運動も、食と同様に健康な生活には欠かせません。本講座では、食と健康について、さまざまな視点から考えていきたいと思います。

第1回 5月18日（土） 中村 雅夫（生活科学科 教授）
美味いだけじゃない？酵母がもたらす楽しみ

第2回 5月25日（土） 中村 雅夫（生活科学科 教授）
食べることへの心配り
～special needsのある子供たちからの学び～

第3回 6月1日（土） 水戸 康夫（生活科学科 助教）
鹿児島県の「あいつ」で心も体も健康に

第4回 6月8日（土） 伊藤 孝（生活科学科 教授）
メリット、デメリットを知らう！ 食品添加物

第5回 6月15日（土） 中村 雅夫（生活科学科 教授）
鹿児島県の食文化～出汁を中心に～

第6回 6月22日（土） 中村 雅夫（生活科学科 助教）
健康寿命アップ～少し考えながら食べ～

第7回 6月29日（土） 中村 雅夫（生活科学科 助教）
食と成分の新しい関係

第8回 7月6日（土） 中村 雅夫（生活科学科 教授）
食と健康！鹿児島県立短期大学公開講座！

2024年度 伊敷公民館講座

文学科 遠峯 伸一郎

令和6年度伊敷公民館講座「生き生き大学」は、本学の文学科、生活科学科、商経学科の教員が講師を担当し、10月16日から11月20日まで、計6回にわたり実施された。受講生の登録数は29名で、延べ受講者数は155名であった。各回の講座終了後、受講生が書いたアンケートは、教務課または次回の担当教員を経由して、講座担当者に渡されている。

「お出汁の試飲で味比べができて分かりやすかった」、「写真や動画を用いての講義で、海外の人々の生活をより理解できた」、「スキタイの金の文化、特に動物の金の文様に興味を持った」、「優しい日本語への書き換えを、改めて具体例の表現で学ぶことができた」、「アクティブラーニングが楽しい講座だった」など6回の講義内容はいずれも大変好評であった。

以下では、各回の担当者とテーマ、講座の概要および講師陣のコメントを掲載する。

各講座の担当者とテーマ

回	実施日	担当者（所属）	テーマ
1	10/16	中熊 美和（生活科学科）	鹿児島の食文化について
2	10/23	穴戸 克実（生活科学科）	トルコとエジプトにおける公共空間としてのコーヒーハウス
3	10/30	土肥 克己（文学科）	スキタイの文化（前8～前3世紀）文物・考古編
4	11/ 6	楊 虹（文学科）	やさしい日本語について考えてみよう
5	11/13	瀬口 毅士（商経学科）	物語とマーケティング
6	11/20	宗田 健一（商経学科）	身体と頭を使って、経営・会計について学ぼう

第1回 中熊 美和

【概要】

2012年に和食がユネスコ無形文化遺産に登録され、地域の郷土料理や伝統食等の食文化を大切に、次の世代へ継承を図ることが推奨されている。改めて「和食とは」「食文化とは」について鹿児島県の食文化を中心に、食事のマナーや食中毒予防など様々な内容を盛り込み講座を行った。特にだしに関しては試飲も実施し、だしの食塩濃度の違いで味の印象が異なることなどを見る・聞くだけでなく、五感を使う講座内容を実施した。

【コメント】

熱心に受講いただき、大変うれしかった。身近な事柄も多く、多数の質問やご意見も頂戴し、私自身も大変勉強になりました。

第2回 穴戸 克実

【概要】

アラブに起源を持つコーヒーとコーヒーハウス

の歴史、および都市空間で果たす役割について解説した。特にトルコやエジプトで、都市の公共空間としてどのように機能しているかに焦点を当て、写真や動画を用いて現地の雰囲気伝えた。

【コメント】

参加者はコーヒー文化に加え、現地で撮影した動画にも強い関心を示し、映り込んだ人々の様子や風景に興味津々だった。動画を通じてさまざまな発見があったようで、それぞれの視点から異文化を楽しむ姿がうかがえた。

第3回 土肥 克己

【概要】

紀元前8世紀以降、スキタイはユーラシアの東西にまたがって活動し、金製品に代表される個性的な文化を創造した。カザフスタンでたびたび出土したスキタイの黄金人間を中心にしつつ、歴史遺産に対する政治利用の側面も織り交ぜながら紹介した。

【コメント】

3年前に伊敷公民館で初めてスキタイを話したときは、時間切れで肝心の黄金文化を紹介しきれなかった。去年はその挽回を図ったものの、突然の入院のため直前で頓挫した。今回ようやく役目を果たすことができてほっとしている。

第4回 楊 虹

【概要】

日本における深刻化する人手不足や外国人労働者が増えつつある現状を解説し、外国人労働者を含む外国人住民とともに暮らす今の時代における「やさしい日本語」の必要性を説明した。例として、介護の分野における言葉の使われ方や、日常のコミュニケーションのし方を取り上げ、普段意識しない日本語の使い方に意識を向けてもらう活動を試みた。

【コメント】

みなさんとても熱心に聞いてくださって、演習にも積極的でした。こちらも学ぶことが多くあり感謝いたします。

第5回 瀬口 毅士

【概要】

以下の構成・内容で講義した。①マーケティング論の基本事項を説明し、市場創造に説得・誘惑・共感という側面があることを確認した。②普段用いている「ことば」について、サピア＝ウォーフ仮説を検討した後、記号論的解説を加えた。③身近な商品を取り上げ、「ことば」を駆使した「物語」の重要性について講義した。

【コメント】

参加者は非常に熱心に講義を聞いてくださった。質疑応答で高度な質問が寄せられた一方で、感想カードでは難しかったという意見も複数あったので、今後はバランスを考えていきたい。

第6回 宗田 健一

【概要】

はじめに簿記・会計の歴史について簡単に概説した。そして、日記や家計簿などを例にして身近なところで関係していることを説明した。次にデジタル技術が簿記・会計に与えている影響について紹介した。最後に参加者が自ら考え、動けるゲームを通じて簿記・会計の重要性や利用可能性について理解を促した。

【コメント】

経営や会計は縁遠いものと思っていたが身近に感じられたという感想や、自分でも実践してみたいなどのご意見をいただいた。参加者と質疑するなかで私自身にも新しい発見があり有意義な講座となった。

2024年度 鹿児島県立短期大学

奄美サテライト講座

商経学科 福田 忠弘

奄美サテライト講座は2024年度で11年目を迎えた。今年度は、「知を活かす 豊かな未来を築くために」のテーマで与論島で開催した。

第1講演は、本学商経学科の岡村俊彦教授が「そこに AI（人工知能）はありますか？ ～0歳から100歳まで役に立つ AI～」と題して講義を行った。ここ数年、ブームを超えて生活に定着しつつある AI について、その仕組みとなぜここにきて多くの分野で使われるようになったか、活用事例とともに紹介した。また昨年からの急激に広まりを見せた生成 AI の実用性をその問題点とともに解説し、実演もおこなった。最後に、AI を中心とした ICT 技術により業務の変革をもたらす DX と新しい価値を生む暮らしやすい社会をめざす Society 5.0について動画を用いながら解説をおこなった。AI と人間は補完しあうことで、よりよい社会を築いていく可能性があることを結論とした。

第2講演は、生活科学科の多田司教授が「その健康食品、ホントにあなたに必要ですか？」をテーマに講演を行った。「健康食品」には、国の制度に基づいて、安全性や効果が確認されているものと、そうでないものがあるが、その違いについては一般の消費者には分かりにくい状況である。そこで消費者庁が提供している資料を基に、健康食品について理解し、利用するときの注意点について解説した。また、健康食品による被害の実例を紹介し、健康食品を安易に利用するのではなく、消費者が自分自身に必要なものなのかどうか、しっかりと理解した上で利用する必要があることを解説した。

9月8日（金）開催

時間	講師名（所属）	テーマ
13：00～14：30	岡村俊彦（商経学科教授）	そこにAI（人工知能）はありますか？ ～0歳から100歳まで役立つAI～
15：00～16：30	多田司（生活科学科教授）	その健康食品、ホントにあなたに必要ですか？

◇講座の最後にアンケート調査を実施し、96人から回答が得られた。以下ではアンケート結果のまとめを記す。

①よかった	16	①よかった	16
②ふつう	0	②ふつう	0
③よくなかった	0	③よくなかった	0
1. 今回の講座を知ったのは		4. 自由意見	
①短大のホームページ	0	* 大変有意義な講座を開催して頂き、ありがとうございました。	
②県短からのお知らせ	0	* 与論にいて、大学のオープンキャンパスなどに行ける機会も少ない中、大学の先生方のお話を聞くことができてよかったです。	
③ポスター	1	* もう少し、AI、PC 活用を広げた生活の充実を考える良い機会になりました。ありがとうございました。	
④知人から	4	* Society5.0の子どもたちの時代に、期待半分心配もしています。“本物”を見分けられる人に育って欲しいと願っています。	
⑤町のホームページ	2	食事にしても、自然の味を感じられる舌だと思います。今日は貴重な講座をありがとうございました	
⑥その他	10		
2. 今回の講座は			
①よかった	16		
②ふつう	0		
③よくなかった	0		
3. 今回のテーマは			

いました

- * 人間と AI は、お互い足りないところを補っていくことが大切という言葉が印象に残った。AI が身近になっている今、個人情報の流出や信頼性なども気を付けていきたいと感じた。

栄養はなるべく食材，食事から摂ることを心がけ，健康食品はあくまで補助的役割で上手に利用することが大切だと改めて感じた。

■地域研究報告

2024年度プロジェクト研究

<共同研究プロジェクト>

インボイス制度が中小企業の会計業務に 与えた影響の分析

商経学科 宗田 健一

電子帳簿保存法の改正により、電子取引情報の保存ルールが変更された。また、インボイス制度が我が国でも導入された。本研究は、中小企業にとって大きな制度変化・導入が会計業務に与えた影響を分析することを目的とする。

インボイス制度におけるインボイスは、売手に対して、正確な適用税率や消費税額等を伝えるものである。売手である登録事業者は、買手である取引相手（課税事業者）から求められたときは、インボイスを交付しなければならないことから、中小企業にとっては会計業務の負担増加となっている。また、買手は、仕入税額控除の適用を受けるために、原則として、取引相手（売手）である登録事業者から交付を受けたインボイスの保存等が必要となり会計業務の負担増加となっている。

インボイス制度は、中小企業の会計業務を大きく変革するものであり、デジタル化対応をより一層推進するものと考えられる。制度導入直後の会計実務を調査することにより、今後の中小企業における会計業務のデジタル化対応について新たな知見を得ることを目的とする。とりわけ従来免税事業者であった中小企業の対応について、注視していきたい。

2024年度は、鹿児島県中小企業家同友会ならびに会員企業へのインタビューを通じて、アンケート調査票の作成を行った。2025年1月からアンケート調査を開始し、その結果は、研究資料ないし論文としてまとめる予定である。

<共同研究プロジェクト>

電子帳簿保存法が中小企業の会計業務に 与えた影響の分析

商経学科 宗田 健一

電子帳簿保存法の改正により、電子取引情報の保存ルールが変更された。また、インボイス制度が我が国でも導入された。本研究は、中小企業に

とって大きな制度変化・導入が会計業務に与えた影響を分析することを目的とする。

電子帳簿保存法の改正により、従来は紙で印刷したものを原本として保管していた会計業務が、2024年1月1日以降は、電子帳簿保存法の要件に則って保存する必要があるが生じている。本研究では、電子帳簿保存法上、電磁的記録による保存は、大きく3種類に区分されていることから、各区分における保存の手続きや会計実務について調査していく。電子帳簿保存法は、中小企業の会計業務を大きく変革するものであり、デジタル化対応をより一層推進するものと考えられる。制度導入直後の会計実務を調査することにより、今後の中小企業における会計業務のデジタル化対応について新たな知見を得ることを目的とする。

2024年度は、鹿児島県中小企業家同友会ならびに会員企業へのインタビューを通じて、アンケート調査票の作成を行った。2025年1月からアンケート調査を開始し、その結果は、研究資料ないし論文としてまとめる予定である。

<共同研究プロジェクト>

ICTによる文化継承

商経学科 岡村 俊彦

商経学科 倉重 賢治

今回のプロジェクトの目的は、地域の財産となりうる文化の継承にICTがどのように活用できるかを模索していくことである。奄美大島の大和村出身で奄美の民俗などを研究、多くの著書を残している長田須磨は奄美の方言や物語に関する音声テープやビデオテープも残している。しかし磁気テープによる保存だと、いずれは消失の危機もあるため、数年前に岡村と倉重の両名でこれらをデジタル化して残す試みをおこなっている。昨春秋に開催された「長田須磨シンポジウム」にて、これらの活動を紹介する講演を行った。「長田須磨シンポジウム」は、長田須磨の業績のみならず、奄美に伝わる伝統文化を次世代に継承していくことを目的とし、奈良女子大学名誉教授の見目正克氏が代表を務める奄美文化継承プロジェクトの主催で毎年開催されており、今回が3回目となる。

長田須磨が残した音声テープやビデオテープのデジタル化自体はすでに終えていたが、今回のシンポジウムで公開するためデータの高品質化に取り組んだ。岡村は、長田須磨へのインタビュー動

画に対して、複数のソフトでAIなどを用いた高画質化をおこなった。倉重は、「長田須磨の奄美の民話と昔がたり－奄美大島の大和浜方言の記録－」の音声データに対して、音声編集ソフトを用いてノイズを除去し、音声をクリアにするデジタル処理を行った。

2024年11月2日大和村防災センターで開催された「第3回長田須磨シンポジウム」での講演タイトルは、『「奄美の民話と昔がたり」音声と映像のデジタル化』で、岡村、倉重の順で講演を行った。岡村は、「文化継承におけるデジタルアーカイブとAI」とのサブタイトルで、デジタルアーカイブやAIの概要について述べた後、高画質化を行った動画を公開した。倉重は、「音声テープのデジタル化」のサブタイトルで、デジタル化の経緯やノイズ除去の概要説明を行い、処理済みの音声データを公開した。

<共同研究プロジェクト>

ヤクシカのジビエとしての生産状況の調査

生活科学科 中島 一喜

生活科学科 多田 司

鹿児島県は、南北に約600kmにもおよび、数多くの離島があり、文化、植生、動物種は多様性に富んでいる。これらの離島には、動物の原種や亜種が存在し、捕獲で得た野生の鳥獣を食肉とする独自の食文化が存在している。また、鹿児島本土と異なり、それぞれの離島で、それぞれの生態系で、それぞれの食性が存在すると考えられる。

屋久島には、ニホンジカの亜種であるヤクシカと呼ばれる小型種が生息している。現在、ヤクシカは生息数が増加する傾向であり、農作物ならびに森林生態系への被害が懸念されており、急速な対策が求められている。これらの被害の対策の一つとして捕獲によるヤクシカのジビエ化が推進されている。しかしながら、鹿児島本土のニホンジカのジビエと同様に、品質（肉質）の均一性に問題がある。日本ならびに鹿児島本土の鹿肉のジビエに関する食資源化に関する研究は、急速に進められているが、屋久島におけるヤクシカの生態、食性ならびに食肉になるまでの食肉生産全般に関する工程に関しては、十分に調査されておらず、さらなる研究の必要がある。

そこで、屋久島におけるヤクシカに関する捕獲、食肉化までの工程を把握する必要があることから、

今回、ヤクシカのジビエ化の現状を調査することとした。今後は、この調査結果を踏まえ、ニホンジカとヤクシカのジビエ化の食肉科学（生産ならびに食品化）的観点から比較検討することにより、ジビエの品質（均一化）に対する制御に関する研究の推進が必要であると思われる。本プロジェクトの調査成果をもとに、基礎研究として他の競争的資金に応募することが可能となり、また、応用研究として、生産現場との協力ならびに産学官の連携により、さらなるジビエの消費拡大の発展に貢献できると考えられる。最後に、本プロジェクトの成果については、学会等で報告する予定である。

<個人プロジェクト>

北海道並びに全国における障害児の 高校進学状況および教育内容 商経学科 田口 康明

国連障害者権利条約は、障害者が「一般的な教育制度（general education）から排除されない」、ということで、欧米各国同様、希望すれば普通学校での教育を行う必要に迫られている。その旨の対日勧告も2022年9月に出された。

その中で、1つの焦点となっているのは、後期中等教育である高校教育である。障害児向けの学校としては「特別支援学校高等部」があるが、障害のない子どもたちとともに学ぶことができるのは「高等学校」である。この高校進学が大きな課題となっている。その実態を調査する一つとして、2024年10月に開催された第15回「障害児」の高校進学を実現する全国交流集会イン旭川 ～北の大地北海道にて10年ぶりの開催！「な～んも、地元の高校へ行けばいいしょ!!」である。ここに参加しその状況等を調査し研究する。本集会は、希望する障害児の高校への進学を実現するための動きは、全国で広まっている。その全国的な動向や取り組み、進学後の高校内での「合理的配慮」、学習上の適切な措置などについて交流し、その内容を検討し、広めることを目的とするものである。報告者田口は、今回の集会では、「第2分科会 高校生になりました！（高校での生活、合理的配慮、排除）」の協力者として、討論への助言ととりまとめを担当した。千葉県と北海道から現役高校生とその保護者が、高校生活の様子についてそのたいへんさも含めて報告した。教職員に不適切

な行為があっても、当該高校生たちはそれなりに教職員を信頼し高校生活に向かっていることがよくわかった

<個人プロジェクト>

奄美大島・泥染めによる美術作品の制作

生活科学科 北 一浩

過去数年にわたり自身の制作活動を奄美大島にて行なっている。大島紬の特徴でもある、多岐にわたる工程（主に、図案・締め・染色・加工・製織）の中でも、染色（泥染め）を制作に取り入れている。全て島の中で完結し、自然の理にかなった方法で行われる泥染めに感銘を受けたためである。そんな泥染めを利用した美術作品の制作を数年にわたって取り組んできた。

昨年度より、国指定重要無形文化財、経済産業

大臣指定伝統的工芸品でもある久留米緋の織元より独立し活動している「K」(旧久留米緋研究舎)との協業を行っている。『伝統工芸とファッションの融合』を掲げアパレルを提案している同社の代表的なアイテムである Departure Pants（着物幅38cmの生地のパイヤス取りで作られたジーンズ）を皮切りに、複数のアイテムでコラボレーションを行ってきた。その集大成の一つとしてとして、鹿児島山形屋1階 STAGE101にて2024年4月3日～9日の期間、『布芸木芸 -fugei mokugei-』と題し「K」及び、鹿児島の木工作家「Koppa 奥信太郎氏」との合同の展示会を行った。

泥染めという伝統工芸の技法を用い、アート作品のみならず、空間演出、アパレルへの展開など様々な可能性を感じることが展示会となった。これを糧にし今後に活かしていきたいと思う。



鹿児島県立短期大学教員 研究・社会活動報告一覧
2024年1月～2024年12月

飯干 明 学長

学術論文

1. 「ゴールボールのスローイングに着目した教材の開発：新たな身体知への気づきとスローイング技能の向上をねらいとして」, 共著(濱中 良, 飯干 明, 金高宏文, 森 司朗, 井福裕俊), 「スポーツパフォーマンス研究」, 16巻, 2024年5月, pp.135-149.

その他

1. 想い「体を育てる栄養のチカラ」, 単著, 全業施協月報, 第763号, 2024年4月, pp.1-2.

学会活動

- ・日本体育・スポーツ・健康学会, 1976年4月～現在
- ・日本体力医学会, 1978年3月～現在
- ・九州体育・スポーツ学会, 1979年9月～現在
- ・日本スポーツ運動学会, 1988年4月～現在
- ・日本発育発達学会, 2002年10月～現在
- ・日本スポーツパフォーマンス学会, 2023年7月～現在

社会還元

1. 座長: 「高木兼寛と丹下梅子: さつまビタミンロードを歩いて健康になろう」, 第94回日本衛生学会学術総会市民公開講座, 於: 鹿児島県民交流センター, 2024年3月9日
2. 講師: 「ウェルビーイングは日々の生活から」, 2024年度日本家政学会九州支部第68回大会公開学術講演会基調講演, 於: 鹿児島県立短期大学, 2024年10月5日

社会活動

1. 全国栄養士養成施設協会理事, 2022年～2024年
2. 鹿児島ユネスコ協会顧問, 2022年～現在
3. 鹿児島県有英財団評議員, 2022年～現在
4. 壽崎有英財団評議員, 2023年～現在

文学科

日本語日本文学専攻

木戸 裕子 教授

学会活動

- ・和漢比較文学会1986年5月～現在。同常任理事
2011年10月～現在。同西部例会委員会委員長
2021年10月～現在。同編集委員会委員 2021年10月～現在。
- ・中古文学会, 1986年5月～現在。
- ・説話文学会, 2005年6月～現在。
- ・西日本国語国文学会, 1988年9月～現在。

社会還元

1. 講師: 「栄花物語を読む」, 金曜会(読書会)
於: 鹿児島青年会館艸舎 2022年9月～現在
2. 講師: 「紫式部日記を読む」, 鹿児島読書サークル, 於: 鹿児島市教育総合センター, 2024年7月12日
3. 出張講義講師: 「源氏物語の親と子」, 於: 鹿児島県立伊集院高等学校, 2024年9月19日
4. 講師 「紫式部をめぐる人々―為時・道長・女房達」, 鹿児島県立短期大学附属図書館金曜講演会, 於: 鹿児島県立短期大学附属図書館, 2024年11月1日

社会活動

1. 2023年11月～現在 鹿児島市文化財審議会委員

小亀 拓也 講師

学術論文

1. 「「切れる」形で文が続くとき―終止形+終助詞の場合―」, 単著, 『鹿児島県立短期大学地域研究所 研究年報』, 第55号, 2024年3月, pp.47-65.

学会発表(口頭)

1. 「表現の成立を支える諸要素―クイズ発話を例に一」, 単独, 第46回日本語日本文化教育研究会, オンライン開催, 2024年6月29日
2. 「文成立の二種―形成的成立と存立的成立―」, 単独, 第74回西日本国語国文学会, 鹿児島県立短期大学, 2024年9月8日

学会活動

- ・日本語学会, 2019年5月～
- ・日本語文法学会, 2019年7月～
- ・日本言語学会, 2019年7月～
- ・西日本国語国文学会, 2022年8月～
- ・表現学会, 2023年3月～

社会還元

1. 講師：「現代語から古代語に分け入る一語源探究の入り口」，鹿児島読書サークル，於：鹿児島市教育総合センター，2024年10月11日
2. 講師：「現代語の文法を通して考える「日本語らしさ」」，鹿児島読書サークル，於：鹿児島市教育総合センター，2024年12月13日

竹本 寛秋 教授

学術論文

1. 「萩原朔太郎と出会う回路 ―教科書の内／外と朔太郎―」，単著，『SAKU（萩原朔太郎研究会 会報）』，第89号，2024年12月，pp.85-95

研究ノート

1. 「『聖三稜玻璃』を考えるための多様な織り糸 ―加倉井東氏の講演をきっかけとして―」，単著，『雲』，第29号，2024年9月，pp.24-29

図録寄稿

1. 「見えないものを追うこと ―山村暮鳥の詩を貫くもの―」，単著，『「生誕百四十年・没後百年記念 山村暮鳥と大洗～おうい雲よ～」図録』，大洗町幕末と明治の博物館，2024年11月，pp.8-13

その他（研究助成）

1. 「生態系と共同体をめぐる思想と表現に関する研究―山尾三省を中心として」，科学研究補助金，基盤研究C（研究代表者），2022～2027年度

学会活動

- ・北大国語国文学会，1996年4月～，評議員
- ・日本近代文学会，1996年4月～，日本近代文学会九州支部 運営委員
- ・日本文学協会，1996年4月～
- ・西日本国語国文学会，2016年4月～，支部委員，2024年9月7～8日，大会運営委員長，2024年10月～，編集委員
- ・日本比較文学会，2009年4月～
- ・昭和文学会，1996年4月～
- ・暮鳥会，2007年4月～，幹事
- ・中原中也の会，2015年10月～
- ・山尾三省記念会，2022年4月～

社会還元

1. 出張講義講師：「一歩進んだ小説の読み方」，於：鹿児島県立図書館，2024年7月12日
2. オープンキャンパス講師：「一歩進んだ小説

の読み方」，於：鹿児島県立短期大学，2024年7月20日

3. 講師：「山尾三省をめぐる」，鹿児島読書サークル，於：鹿児島市教育総合センター，2024年8月9日
4. 講師：「わかりたいあなたのための小論文の勉強の仕方」，鹿児島県立短期大学人文学会 学術講演会，於：鹿児島県立短期大学，2024年12月25日

社会活動

1. 2024年10月12日，鹿児島県高等学校文化連盟 弁論大会審査員，於：志學館大学

土肥 克己 教授

社会還元

1. 講師：「スキタイの文化（前8～前3世紀）文物・考古編」，伊敷公民館講座，於：伊敷公民館，2024年10月30日

楊 虹 教授

学術論文

1. 「中国語Wechatコミュニケーションに関する研究動向の概観」，単著，『鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会科学篇』74，1-18

学会発表（口頭）

1. 「SNSチャットにおける感情表出の日中対照」，単著，第48回社会言語科学会研究大会，福岡女子大学，2024年3月8日

学会活動

- ・日本語教育学会，国際連携委員
- ・社会言語科学会，大会企画委員
- ・学会誌『語用論研究』査読協力

社会還元

1. 講師：「日本語支援ボランティア養成講座」，鹿児島市国際交流センター，2024年2月17日，3月2日
2. 講師：「やさしい日本語について考えよう」，鹿児島県立短期大学伊敷公民館講座，2024年11月6日

英語英文学専攻

石井 英里子 准教授

学会発表（ポスターセッションを含む）

1. 「Gaze analysis on compilation error correction

- for a programming learning support system」, 共同, (Naoki Fujisaka, Mitsuo Yamada, Eriko Ishii, Yuko Hoshino), The 12th International Workshop on Image Media Quality and its Applications (IMQA2024), 於: Osaka University Nakanoshima Center, Osaka, 2024年2月27日-28日.
2. 「Proposal for a related news recommendation method using the gaze while viewing news articles」, 共同, (Shu Iwasa, Eriko Ishii, Mitsuo Yamada, Yuko Hoshino), The 12th International Workshop on Image Media Quality and its Applications (IMQA2024), 於: Osaka University Nakanoshima Center, Osaka, 2024年2月27日-28日.
 3. 「初心者のコンパイルエラー理解を支援するシステム」, 共同, (藤坂直輝, 山田光穂, 石井英里子, 星野祐子), 電子情報通信学会 総合大会, 於: 広島大学, 2024年3月6日.
 4. 「視線を活用したWeb閲覧データに基づくパーソナライズドニュース推薦システムに関する研究」, 共同, (星野祐子, 柳川凛太郎, 清田真一, 岩佐周, 石井英里子, 山田光穂), 電子情報通信学会 IMQ 他合同研究会, 於: 沖縄産業支援センター, 2024年3月15日.
 5. 「不明確なコンパイルエラーの理解支援と提示方法に関する研究」, 共同, (藤坂直輝, 山田光穂, 石井英里子, 星野祐子), 電子情報通信学会 IMQ 他合同研究会, 於: 沖縄産業支援センター, 2024年3月15日.
 6. 「A Study on a Tourism-Related Information Recommendation System Based on Web Browsing Data Utilizing Eye Gaze」, 共同, (Yuko Hoshino, Rintaro Yanagawa, Shu Iwasa, Eriko Ishii, Mitsuo Yamada), The 2nd International Conference on ICT Application Research, 於: Nebuta Museum WA RASSE, Aomori, 2024年8月31日-9月3日. IAR 2024 Best Paper Award.
 7. 「Clarifying Error Messages and Comparing Gaze by Skill Level」, 共同, (Naoki Fujisaka, Mitsuo Yamada, Eriko Ishii, Yuko Hoshino), The 2nd International Conference on ICT Application Research, 於: Nebuta Museum WA RASSE, Aomori, 2024年8月31日-9月3日. IAR 2024 Best Student Paper Award.
 8. 「初心者向けエラーメッセージの明瞭化とプログラミングスキルに基づく視線の比較」, 共同, (藤坂直輝, 山田光穂, 石井英里子, 星野祐子), 第23回情報科学技術フォーラム (FIT2024), 於: 広島工業大学, 2024年9月4日-6日.
 9. 「Web閲覧中の視線情報を活用した嗜好抽出とその関連ニュース推薦の研究」, 共同, (岩佐周, 星野祐子, 石井英里子, 山田光穂), 国際ICT利用研究学会, 於: 日本大学神田三崎町キャンパス, 2024年12月1日
- ### 学会活動
- ・TESOL International Association, 2008年3月～
 - ・多文化関係学会, 2010年4月～事務局長(2021年4月～)
 - ・全国英語教育学会, 2018年9月～
 - ・九州英語教育学会, 2018年9月～
 - ・メディア外国語教育学会 (LET), 2018年9月～
 - ・大学英語教育学会, 2018年9月～
- ### 社会的活動(社会還元, 社会活動)
1. 曾於市立末吉小学校改築設計業務プロポーザル審査委員会, 委員, 2024年1月1日～7月22日
 2. 鹿児島県曾於市教育振興審議会, 委員, 2024年10月18日～
 3. 鹿児島県教育研究集会, 外国語教育部会, 共同研究者, 2015年8月～
- ### ガルシア・アロヨ ホルヘ 准教授
- #### 学会発表(口頭)
1. *Pundonor*. The Spanish Sense of Honor and Courage in Hemingway's Works. 日本アメリカ文学会第63回全国大会; 中京大学名古屋キャンパス, 2024年10月12日
- #### 学会活動
- ・日本アメリカ文学会, 2016年4月～, 会員
 - ・日本ヘミングウェイ協会, 2023年4月～, 会員
- ### 小林 朋子 教授
- #### 学会活動
- ・日本アメリカ文学会, 2006年～, 会員
 - ・日本英文学会, 2006年～, 会員(2023年4月～九州支部事務局書記)
 - ・鹿児島英語英文学会, 2006年～, 会員

- ・多民族研究学会，2011年～，会員（2019年8月～大会運営委員）
- ・原爆文学研究会，2019年～2022年，会員

社会還元

1. 講師：「お伽噺で語る比較文化論—「赤ずきん」の深層に触れる」，鹿児島読書サークル，於：鹿児島市教育総合センター，2024年3月8日
2. 講師：「『この世界の片隅に』から文学を考える」，国分高等学校大学出前授業，於：国分高等学校，2024年8月20日

社会活動

1. 2023年度～，玉江小学校学校運営協議会委員

遠峯 伸一郎 教授

書評

1. 「Don Ringe (2021) *A Historical Morphology of English*, Edinburgh University Press, Edinburgh.」単著，『近代英語研究』第40号，pp.46-53

学会活動

- ・日本英語学会，1995年～，会員
- ・近代英語協会，1997年～，会員

社会還元

1. 出張講義講師：「絵本から始まる日本語と英語の違い」，松陽高校，2024年7月11日

轟 義昭 教授

資料

1. 「Discovering the Miniatures of Fortune in Medieval Manuscripts online」，単著，『鹿児島県立短期大学紀要』，第75号，2024年12月，pp.21-38

米村 大輔 助教

学術論文

1. 「直接ライティングフィードバックにおける修正タスクが正確性に与える影響—間接フィードバックと比較しながら—」，単著，『中部地区英語教育学会紀要』，第53号，2024年1月，pp.103-110.（査読有）
2. 「タブレット端末を使用した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの英語教育方法論—中学校：高等学校での活用—」，共著，（○高橋美由紀，米村大輔，森直樹，中川右也），『鹿児島県立短期大学研究年報』，第55号，

2024年3月，pp.13-25

その他（研究・調査協力）

- ・中部地区英語教育学会 課題研究プロジェクト

学会活動

- ・中部地区英語教育学会，2016年4月～
- ・全国英語教育学会，2016年4月～
- ・NPO The Japan Association for Language Teaching，2016年4月～

生活科学科

食物栄養専攻

有村 恵美 准教授

学術論文

1. 「Nutritional Risk Factors in Albuminuria and Retinopathy in Patients Newly Diagnosed with Type 2 Diabetes : A Cross-sectional Case Series Study」，共著，（○Emi Arimura, Yukiko Maruguti, Yaoko Nakao, Miharu Ushikai, Koji Yotsueda, Shoko Kajiya, Yoshihiko Nishio, Masahisa Horiuchi），『in vivo』，2024年7月，38（5）：2506-2514（査読有）

資料

1. 「本学の管理栄養士国家試験対策の教育効果と課題について」，共著，（○中熊美和，有村恵美），『日本食生活研究』，44（7）：64-73，2024（査読有）

その他（研究助成等）

1. 研究代表，科学研究費基盤研究（C）日本学術振興会「鹿児島市CKD予防ネットワークを活用した糖尿病腎症・網膜症栄養関連因子の検討」，2018年4月～2024年3月

招聘学会発表

1. 「Stop the 大腸がん～栄養・食生活～」，単独，第94回日本衛生学会学術総会，於，かごしま県民交流センター，2024年3月8日，第94回日本衛生学会学術総会抄録集，p.189

学会発表

1. 「初診糖尿病患者における腎症・網膜症発症に関連する栄養因子の検討」，共同，（○有村恵美，丸口由紀子，中尾矢央子，牛飼美晴，四枝皓二，加治屋昌子，西尾善彦，堀内正久），第94回日本衛生学会学術総会，於，かごしま県民

交流センター，2024年3月8日，第94回日本衛生学会学術総会抄録集，p.36

学会活動

- ・日本病態栄養学会，2002年6月～，代議員（2019年4月～），学術評議員（2020年1月～）
- ・日本糖尿病・妊娠学会，2004年12月～
- ・日本腎臓学会，2006年9月～
- ・日本糖尿病学会，2007年5月～
- ・日本衛生学会，2009年12月～，学会準備運営委員（2022年7月～2024年3月），優秀演題賞選考委員（2023年11月～2024年3月）
- ・日本糖尿病性腎症研究会，2009年12月～
- ・日本CKDチーム医療研究会，2010年10月～，幹事（2011年10月～）
- ・日本糖尿病合併症学会，2012年9月～
- ・日本産業衛生学会，2014年12月～
- ・日本腎臓代謝研究会，2015年7月～，幹事（2017年7月～2021年6月，2023年7月～），監事（2021年7月～2023年6月）

社会還元

1. 座長（教育講演）：「第27回日本病態栄養学会年次学術集会（病態別 中性脂肪の治療戦略）」，於：国立京都国際会館，2024年1月28日，オンデマンド配信：2024年2月2日～26日
2. 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「うなぎについて」，於：鹿児島県庁食堂，2024年2月
3. 講師：「糖尿病重症化予防を目指して～たんぱく質の意義～」，2023年度糖尿病重症化予防連携強化研修会，於：鹿児島県医師会館，Web配信，2024年2月21日
4. 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「ぶり・かんぱち～かごしまの特産品とビタミンについて～」，於：鹿児島県庁食堂，2024年3月
5. 世界腎臓デー in かごしま イベント（CKD予防講演会）協力：於：かごしま中央公民館，2023年3月16日
6. 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「鹿児島のかつおとかつお節に注目しよう!!!」，於：鹿児島県庁食堂，2024年4月
7. 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「かごしま黒豚」，於：鹿児島県庁食堂，2024年5月
8. 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「鹿児島の特産品を食べて元気に！ さつまいものチカラ」，於：鹿児島県庁食堂，2024年6月

9. 指導者「歯の衛生週間」，於：山形屋，2024年6月2日
10. 講師：「健康寿命アップ～少し考えながら食べる～」，2024年度 鹿児島県立短期大学公開講座，於：鹿児島県立短期大学，2024年6月22日
11. 講師「栄養管理（小児疾患）」，2024年度栄養教諭ステップアップ研修（5年経験者研修），於：鹿児島県総合教育センター，2024年7月3日
12. 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「桜島大根」，於：鹿児島県庁食堂，2024年7月
13. 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「緑茶のはたらきについて知ろう！」，於：鹿児島県庁食堂，2024年8月
14. インスタグラム掲載：「2024年度ゼスプリタイアップ授業紹介（調理学実習Ⅰ）」，全国栄養士養成校施設協会インスタグラム，2024年9月21日
15. 審査委員
「第21回森のごちそうコンクール審査員（鹿児島県，鹿児島県庁産業振興会連合会，鹿児島県椎茸農業協同組合），（書類審査：鹿児島県庁）（実演審査：今村ライセンスアカデミー）」，2024年10月3日，2024年11月16日

社会活動

1. 2013年7月～，鹿児島市慢性腎疾患（CKD）予防ネットワーク事業オブザーバー
2. 2013年12月～，鹿児島市世界腎臓デーワーキング委員
3. 2024年4月～，始良市給食施設選定委員会委員

木下 朋美 助教

著書

1. 日本伝統文化検定協会・木田拓也監修，『伝検公式テキスト：日本の伝統文化を総合的に学ぶ検定』，株式会社時事通信出版局，共著，2024年10月，288総頁，担当箇所：伝統文化「日本茶」，pp.201-212

調査協力

1. 垂水元気プロジェクト調査チーム

学会活動

- ・日本家政学会
- ・日本調理科学会
- ・日本茶業学会

・鹿児島県茶業技術協会

社会還元

1. 講師：「賢いビタミンの摂り方」，第94回日本衛生学会学術総会市民公開講座，於：かごしま県民交流センター，2024年3月9日
2. レシピ提供：食品ロス削減レシピ「茶殻入りドライカレー」，食育情報誌「Let's 食育」No.26，鹿児島市保健政策課発行，2024年3月
3. 産学連携学生指導・マスコミ報道：はんず茶の製造，2024年4月27日，および給食実習での提供，2024年5月2日，KKB 2024年5月2日放送，MBC 2024年5月6日放送
4. 産学連携学生指導・マスコミ報道：はんず茶の製造体験および試飲会の開催，於：おいどん市場与次郎館，2024年5月4日，KKB 2024年5月4日放送，MBC 2024年5月4日放送，読売新聞2024年5月5日掲載，日本農業新聞2024年5月9日掲載
5. 産学連携学生指導：はんず茶の製造体験および試飲会の開催，於：都市農村交流センターお茶の里，2024年5月19日
6. 情報提供・マスコミ報道：お茶割りについて，南日本新聞，2024年5月25日掲載
7. 情報提供・マスコミ報道：ゴミの日・茶殻を使った料理について，MBCラジオ，2024年5月30日放送
8. 講師：「鹿児島の『茶いっぺ』で心も体も健康に」，鹿児島県立短期大学公開講座，於：鹿児島県立短期大学，2024年6月1日
9. 講師：「茶殻の活用から学ぶSDG」，5地域の食材を活用した魅力創出ワークショップ，於：鹿児島市立鹿児島女子高等学校，2024年6月4日
10. 講師：「お茶を知ろう！お茶入りドライカレー作り」，かごしま環境未来館主催学習講座，於：かごしま環境未来館，2024年6月15日
11. 審査員：日本茶AWARD2024，「萎凋煎茶部門」審査および講評，二次審査（於：鹿児島茶流通センター，2024年9月1日）担当
12. レシピ提供：「茶殻の冷製ポタージュスープ」，かごしま茶ナビインスタグラムおよびホームページ掲載，2024年9月11日
13. 情報提供・マスコミ報道：夏バテについて，KTS，2024年9月12日放送
14. 講師：「伊集院のお茶と食育」，PTA家庭教育学級，於：日置市立伊集院北中学校，2024年10月12日
15. 産学連携学生指導：環境フェスタかごしま2024出展，於：かごしま環境未来館，2024年10月19日
16. 産学連携学生指導：はんず茶の製造体験および試飲会の開催，於：おいどん市場与次郎館，2024年10月26日
17. 産学連携学生指導：アグリ博2024出展，於：県民交流センター，2024年11月2日
18. 産学連携学生指導：第9回かごしま食育フェスタ出展，於：アミュ広場，2024年11月9日
19. 産学連携学生指導：はんず茶の製造体験および試飲会の開催（まつもとまるっとマルシェ），於：あいハウジングアリーナ松元，2024年11月10日
20. 産学連携学生指導：かごしまお茶マルシェ2024出店，於：アミュ広場，2024年11月30日
21. 講師：「鹿児島の茶業について」，鹿児島県鹿児島県農政部農政課かごしまの食輸出・ブランド戦略室食の安全推進係主催南薩視察バスツアー，2024年12月21日

社会活動

1. 2005年4月～現在，NPO現代喫茶人の会，理事
2. 2013年4月～現在，お茶料理研究会，世話人
3. 2016年10月～現在，鹿児島県茶業会議所，かごしま茶販路拡大対策等活動助成
4. 2019年1月～現在，鹿児島市農業振興協議会，委員
5. 2020年6月～現在，鹿児島県茶生産協会，茶業経営向上活動事業

多田 司 教授

学会活動

日本栄養・食糧学会，1996年4月～，正会員

日本農芸化学会，1998年4月～，正会員

社会還元

1. 講師：「メリット，デメリットを知ろう！食品添加物」，鹿児島県立短期大学公開講座，於：鹿児島県立短期大学，2024年6月8日
2. 講師：「ごはん，食べてる？」，鹿児島県立短期大学夏のオープンキャンパス模擬授業，於：鹿児島県立短期大学，2024年7月20日
3. 講師：「その健康食品，ホントにあなたに必

要ですか?」, 奄美サテライト講座2024, 於:
与論町地域福祉センター, 2024年9月8日

中熊 美和 助教 資料

1. 「本学の管理栄養士国家試験対策の教育効果と課題について」, 共著 (○中熊美和, 有村恵美), 『食生活研究』, 44 (7): 64-73, 2024 (査読有)

その他 (調査協力)

1. 調査協力, 垂水元気プロジェクト調査チーム, 2022年～

学会活動

- ・日本病態栄養学会, 2012年12月～
- ・日本栄養治療学会 (旧 日本静脈経腸栄養学会), 2015年2月～
- ・日本給食経営管理学会, 2016年10月～
- ・美味技術学会, 2020年6月～
- ・日本食生活学会, 2022年7月～
- ・日本食育学会, 2024年8月

社会還元

1. 講師: 「鹿児島の食文化～出汁を中心に～」 鹿児島県立短期大学公開講座, 於: 鹿児島県立短期大学, 2024年6月15日
2. 講師: 「鹿児島の食文化について」伊敷公民館講座, 於: 伊敷公民館, 2024年10月16日
3. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画: 「うなぎについて」, 於: 鹿児島県庁食堂, 2024年2月
4. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画: 「ぶり・かんぱち～かごしまの特産品とビタミンについて～」, 於: 鹿児島県庁食堂, 2024年3月
5. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画: 「鹿児島のかつおとかつお節に注目しよう!!!」, 於: 鹿児島県庁食堂, 2024年4月
6. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画: 「かごしま黒豚」, 於: 鹿児島県庁食堂, 2024年5月
7. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画: 「鹿児島の特産品を食べて元気に! さつまいものチカラ」, 於: 鹿児島県庁食堂, 2024年6月
8. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画: 「桜島大根」, 於: 鹿児島県庁食堂, 2024年7月
9. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画: 「緑茶のはたらきについて知ろう!」, 於: 鹿児島県庁食堂, 2024年8月

社会活動

1. 栄養指導

口と歯の健康週間, 於: 鹿児島市山形屋, 2024年6月1日

2. インスタグラム掲載

「2024年度ゼスプリタイアップ授業紹介 (調理学実習Ⅰ)」, 全国栄養士養成校施設協会インスタグラム, 2024年9月21日

中島 一喜 教授 学術論文

1. 「Phenotypic characteristics of adipocyte-like cells generated from C2C12 myoblasts cultured with chicken serum」共著, (○Kiriko Nakamura, Rukana Kohrog, Saki Shimamoto, Ayumi Katafuchi, Kazuki Nakashima, Shozo Tomonaga, Akira Ohtsuka, Daichi Ijiri) 『Biochemical and Biophysical Research Communications』2024年10月, 736: 150843. (査読有)

資料

1. 「血中アミノ酸濃度から肝臓脂質量を推定する技術」共著, (○高橋伸一郎, 伯野史彦, 増田正人, 西宏起, 合田祐貴, 山中大介, 勝俣昌也, 中島一喜, 潮秀樹, 豊島由香, 竹中麻子, 宮本崇史) 『The Lipid』2024年4月, 35 (1): pp.4-9

学会発表 (口頭)

1. 「ニワトリ血清で培養したC2C12筋芽細胞の特性評価」共著, (○島元紗希, 中村桐子, 興梠瑠香奈, 片渕歩美, 中島一喜, 友永省三, 大塚彰, 井尻大地) 『第9回 若手による骨格筋細胞研究会』2024年11月 一般発表1 発表番号03

学会活動

- ・日本畜産学会機関誌編集委員会委員

中西 智美 准教授 学術論文

1. 「噛むことを中心とした保護者の食育に関する意識と実態」, 共著, (○榊順子, 土元麻未, 吉田三千代, 鎌田理恵, 小野真優子, 中西智美, 児玉むつみ, 中馬和代, 金田雅代, 饗場直美), 『栄養教諭食育研究会誌』, 第8号, 2024年11月, pp.44-46

学会発表 (口頭)

1. 「学校給食を中心とした食育と栄養教諭による指導を受けた経験が短大生の食意識に及ぼ

す影響」，共同，（○児玉むつみ，中西智美，榊順子，中馬和代，金田雅代，饗場直美他6人），第71回日本栄養改善学会学術総会，口頭発表，於：大阪公立大学杉本キャンパス，2024年9月8日，第71回日本栄養改善学会学術総会講演要旨，p.331

研究大会発表（ポスター）

1. 『「食に関する指導の全体計画作成の評価指標設定における課題抽出プロセスの検討」～特別支援学校における食育評価の妥当性～』，共同，（○中西智美，金田雅代，饗場直美），第8回栄養教諭食育研究大会，ポスター発表，於：とうしんまなびの丘“エール”，2024年11月3日，『栄養教諭食育研究会誌』，第8号，2024年11月，p.49，p.52-53

その他

1. 研究実施者，科学研究費基盤研究（C）日本学術振興会「栄養教諭の学校給食を教材とする食育の実践状況と効果的な展開法についての研究」，2022～2024年度

学会活動

- ・日本栄養改善学会，2016年3月～
- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会，2023年3月～
- ・鹿児島農村医学研究会，2024年4月～，幹事（2024年4月～）
- ・鹿児島県小児保健学会，2013年8月～，理事（2024年8月～）
- ・栄養教諭食育研究会，2015年4月～

社会還元

1. 講師：2024年度鹿児島県立短期大学公開講座（於：本学）食と健康 第2回「食のことへの心配り～special needsのある子供たちからの学び～」，2024年5月25日
2. 講師：「楽しい食事，つながる食事」，鹿児島県立短期大学秋のオープンキャンパス模擬授業，於：鹿児島県立短期大学，2024年11月24日
3. 講師：令和6年度「地域体験実習」（於：鹿児島大学歯学部）「特別支援学校における摂食指導の実際」，2024年11月20日
4. 指導者：令和6年度県立中種子特別支援学校二次調理における栄養教諭派遣指導，県教育委員会保健体育課，（於：中種子特別支援学校），2021年4月～現在

社会活動

1. 鹿児島県学校給食会評議員（2024年5月～）

その他

1. 情報提供：「そよかぜ」かごしま子ども在宅療養ナビ【子どものケア（発達嚥下調整食）】，鹿児島県くらし保健福祉部子ども家庭課HP，2023年3月～
2. 栄養指導：歯と口の衛生週間，於：鹿児島市山形屋，2024年6月2日
3. 調査協力：「垂水元気プロジェクト調査チーム」，於：垂水市，2024年9月15日
4. 授業公開（交流授業）：鹿児島市立玉江小学校6年「総合的な学習の時間」，於：鹿児島県立短期大学，2024年11月7日～12月5日

浜田 幸史 教授

学術論文

1. 「2023年台湾における体育・保健体育科教育の現状：台北，新北，台中地区の実態調査から」，共著（佐藤豊，林田はるみ，井口成明，本多壮太郎，木原慎介，清田美紀，浜田幸史，岩崎敬，掌慶維，中田真美），『桐蔭スポーツ科学=Toin sport sciences』第7号，2024年3月，pp.7-19.
2. 「教職課程履修大学生が想起する「総合的な学習の時間」－中学時代の学習経験から教職課程における指導法を考える－」，共著（栗山靖弘，山本一生，浜田幸史），『鹿屋体育大学学術研究紀要』，第62号，2024年4月，pp.1-12.

寄稿

1. 「中学と高校の体育理論の授業実態と実践上の課題」，単著，『体育科教育』，第72巻第5号，2024年5月，pp.11-14

学会発表（口頭）

1. 「中・高等学校における「体育理論」の実態に関する研究」，単独，九州体育・スポーツ学会第73回大会，2024年9月7日

その他（研究助成）

1. 「中・高等学校体育分野・科目体育「体育理論」授業モデルの開発と実践を通した効果検証」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）2022～2024年度

学会活動

1. 日本体育・スポーツ・健康学会，2020年9月～現在
2. 日本体育科教育学会，2020年9月～現在

3. 九州体育・スポーツ学会, 2020年9月～現在
4. 日本部活動学会, 2022年1月～現在
5. 日本バレーボール学会, 2022年5月～現在

社会還元

1. 講師：「主体的に活動を行う態度を育成する指導の在り方」, 曾於市部活動指導者講習会, 於：末吉総合センター, 2024年3月6日
2. 講師：「子育て真っ只中！悩める保護者のセルフコントロール術」, 樋脇地域PTA教育講演会, 於：薩摩川内市立樋脇中学校, 2024年6月23日
3. 講師：「食欲増進！健康増進！加齢を勉強！華麗に運動！」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於：鹿児島県立短期大学, 2024年7月6日
4. 講師：「運動会に向けて」, 出前授業, 於：垂水市立新城小学校, 2024年9月12日
5. 講師：「ウェルビーイングは微々たる取組から」, 日本家政学会九州支部第68回大会公開学術講演, 於：鹿児島県立短期大学, 2024年10月5日
6. 講師：「市陸上記録会・ペースランニング大会に向けて」, 出前授業, 於：垂水市立新城小学校, 2024年10月15日
7. 講師：「楽しい体育授業について」, 大隅地区体育・保健体育研究会, 於：鹿屋市立鹿屋小学校, 2024年10月25日
8. 実行委員長・コーディネーター：「部活動の主人公たちのキモチ」, 日本部活動学会第7回研究集会inかごしま, 於：ホテルタイセイアネックス, 2024年12月14日

社会活動

1. 鹿屋市立鹿屋東中学校女子バレーボール部部活動指導員（2020年3月より外部指導者）, 2019年10月～2024年8月
2. 鹿屋市バレーボール協会指導普及委員, 2021年4月～現在
3. 大隅地区体育・保健体育研究会代表, 2022年4月～現在
4. 鹿児島県教員資質向上委員会委員, 2022年12月～2024年3月
5. 鹿屋市部活動地域移行検討会（2023年度より鹿屋市部活動地域移行推進協議会）委員, 2022年12月～現在
6. 燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会鹿屋市実行委員会顧問, 2023年2月～2024年1

月

7. 鹿屋市教育委員, 2023年2月～現在
8. 大崎町部活動地域移行検討委員会委員, 2023年6月～現在
9. 鹿児島市立伊敷中学校学校運営協議会委員, 2024年4月～現在
10. 九州地区大学体育連合理事, 2024年4月～現在
11. 鹿児島市立学校プール共用化等検討委員会委員長, 2024年5月～現在
12. 鹿児島県学校部活動地域連携等推進協議会委員長, 2024年5月～現在
13. 鹿児島県体力向上検討委員会委員, 2024年6月～現在
14. 「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業協力者会議委員長, 2024年6月～現在
15. 鹿児島市スポーツ推進審議会オブザーバー, 2024年8月～現在
16. 鹿児島市学校部活動地域連携等推進協議会運動部活動分科会座長, 2024年8月～現在
17. 始良市立加治木中学校女子バレーボール部外部指導者, 2024年9月～現在

古川 那由太 助教

学術論文

1. 「高発酵能と乳酸生成能を有する酵母 *Lachan* *cea fermentati* KPC 1 の発酵特性」, 単著, 『日本食品科学工学会誌』, 第71巻, 第8号, 2024年8月, pp.297-305

学会発表（口頭）

1. 「高発酵能と乳酸生成能を有する酵母 *Lachan* *cea fermentati* KPC 1 の発酵特性」, 単独, 日本食品保蔵科学会第73回（沖縄）大会, 於：琉球大学千原キャンパス, 2024年6月30日

学会活動

- ・日本生化学会 2012年6月～
- ・日本農芸化学会 2012年11月～
- ・日本食品科学工学会 2022年5月～
- ・日本食品保蔵科学会 2023年11月～

社会還元

1. 講師：「美味しいだけじゃない！？酵母がもたらす恵み」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於：鹿児島県立短期大学, 2024年5月18日

その他

1. 授業公開（交流授業）：鹿児島市立玉江小学校6年「総合的な学習時間」, 於：鹿児島県

立短期大学, 2024年6月13日, 7月18日

生活科学専攻

浅海 真弓 准教授

その他(研究報告)

1. 「機械学習を用いた耐光堅ろう度の等級判定の試み」, 共著(○浅海真弓, 森俊夫), 『日本家政学会被服材料科学部会部会報』, 第38号, 2024年2月, pp.2-7

学会活動

- ・日本衣服学会, 2003年6月～
- ・日本繊維製品消費科学会, 2004年2月～
- ・日本家政学会, 2004年6月～, 日本家政学会被服材料科学部会幹事(2017年5月～), 日本家政学会被服材料科学部会役員(2021年5月～), 日本家政学会九州支部常任幹事(2022年6月～), 日本家政学会九州支部第68回大会実行委員長(2024年3月～)

飯田 都 准教授

学術論文

1. 「低SES世帯の子どもの非認知能力を支えるための言語力育成に関わるニーズアセスメント研究－支援者からみた子どもの言語使用の検討を通して－」, 『浜松学院大学研究論集』, 2024年3月, pp.69-80

学会発表

1. 「日常生活スキルが職業観ならびにキャリア・レディネスへ及ぼす影響」, 日本カウンセリング学会第56回大会, 2024年8月

学会活動

- ・日本教師学学会, 2024年4月～, 日本教師学学会編集委員会幹事

上笹貫 鷹暁 助教

学会活動

- ・日本デザイン学会, 2022年4月～

デザイン(実務)

1. 「VolleyPlus PR・マニュアル動画制作」(株式会社バスケットプラス), アートディレクション, 2024年4月
2. 「Basketball Analyst雑誌広告デザイン」(株式会社バスケットプラス), アートディレクション, 2024年4月
3. 「枕崎市広報誌『広報まくらざき』800号記念

デザイン」, アートディレクション, 2024年11月

4. 「鹿児島県身体障害者福祉協会イベントチラシデザイン」, アートディレクション, 2024年11月

川島 茂 教授

学会活動

- ・日本建築学会
- ・日本建築家協会

社会還元

1. 2023年3月～, 桜島地域における義務教育学校整備検討委員会 委員
2. 2023年7月～2024年3月, 鹿児島県本港区エリアにおける景観・デザイン調整会議 委員
3. 2023年12月15日～2024年1月17日, ちいさないえのけんちく展／鹿児島県立短期大学(6坪ギャラリー) 学生作品展示支援, 展示計画
4. 2024年1月～7月, 曾於市立末吉小学校改築設計業務プロポーザル審査委員会 委員長
5. 2024年2月 1日～7日, 「生活科学専攻卒業研究作品展2024」(学内展) 学生作品展示支援, 展示計画協力
6. 2024年2月24日～25日, 「鹿児島建築学生合同設計展 Kagoshima Design Project 2024」(かごしま県民交流センター) 学生作品展示支援, 展示計画協力
7. 2024年3月9日, 「鹿児島県立短期大学建築卒業制作講評会」(かごしま環境未来館／主催: 民家再生協会かごしま) 学生作品展示, 講評支援
8. 2024年3月1日～3月6日, 「生活科学専攻卒業研究作品展2024」(マルヤガーデンズ Uniment garden) 学生作品展示支援, 展示計画協力
9. 2024年3月～, 鹿児島市街路樹再生プラン策定協議会 座長
10. 2024年10月, 鹿児島市景観まちづくり賞審査委員会 副委員長
11. 2024年11月～, 鹿児島県本港区エリア景観・デザイン協議会 委員
12. 2023年11月24日, 鹿児島県建築士会建築技術講習会(始良・伊佐地域振興局伊佐市庁舎) 講師「このごろの学校から建築を設計することをかんがえてみる」
13. 2024年12月～, 長島町立中学校再編に伴う基

本計画策定ワークショップファシリテーター

社会活動

- ・2020年4月～，鹿児島市都市計画審議会 委員
- ・2022年4月～，日本建築学会九州支部鹿児島支所 評議員
- ・2022年4月～，日本建築家協会九州支部事業委員会 25年賞ワーキンググループ 委員
- ・2023年3月～，鹿児島市景観審議会 委員

北 一浩 准教授

社会還元

1. 講師：「アイデアを広げるデザイン思考とは？」，出張講義，於：志布志高校，2024年11月7日

社会活動

1. 2018年4月～，鹿児島市クリエイティブ産業育成支援検討委員

展覧会（グループ展）

1. 布芸木芸-fugei mokugei-，山形屋 STA GE101（鹿児島），2024年4月

デザイン（実務）

1. 「枕崎市広報誌『広報まくらざき』800号記念デザイン」，クリエイティブディレクション，2024年11月
2. 「鹿児島県身体障害者福祉協会イベントチラシデザイン」，クリエイティブディレクション，2024年11月

坂上 ちえ子 教授

学会発表（ポスターセッション）

1. 「色差を援用したファッション造形の実習指導について」，単独，日本色彩学会第55回全国大会〔福岡〕 '24，於：九州大学，2024年6月29日～30日
2. 「衣生活を彩る色・いろ」，単独，日本色彩学会第55回全国大会〔福岡〕 '24，オープンカラーラボ，於：九州大学，2024年6月29日～30日

学会活動

- ・日本家政学会，1990年～
- ・日本色彩学会，1992年～，評議員，関西支部役員
- ・日本生理人類学会，1992年～
- ・日本教育心理学会，2005年～

社会還元

1. 講師：「色の不思議を学びましょう」，オープ

ンキャンパス研究室紹介，於：本学，2024年7月20日

2. 講師：「色彩戦略（カラーストラテジー）」，出張講義，於：明桜館高等学校，2024年7月26日
3. 講師：「色の不思議を学びましょう」，オープンキャンパス研究室紹介，於：本学，2024年11月24日

社会活動

1. 2023年3月～2025年2月，鹿児島県伝統工芸品産業振興対策協議会委員
2. 2024年4月～2026年3月，鹿児島市屋外広告物審議委員会委員
3. 2024年4月～2027年3月，鹿児島県屋外広告物審議委員会委員
4. 2024年6月～2026年5月，鹿児島市景観アドバイザー
5. 2023年6月～2025年5月，薩摩川内市景観審議会委員

穴戸 克実 准教授

その他（研究助成）

1. 分担，科学研究費基盤研究（C）日本学術振興会「トルコ諸都市における公共空間の現代の変容に関する研究」，2024年4月～2028年3月

社会還元

1. 講師：「トルコとエジプトにおける公共空間としてのコーヒーハウス」伊敷公民館講座，於：伊敷公民館，2024年10月23日

学会活動

- ・日本建築学会
- ・日本中東学会
- ・地中海学会
- ・日本トルコ交流協会

田邊 しずか 助教

学会発表（口頭）

1. 「17世紀末フランスにおけるアマデイス・スリープの流行と具体像」，単独，服飾文化学会第25回総会・大会，於：文化学園大学，2024年5月18日

学会活動

- ・服飾文化学会，2016年5月～

社会還元

1. 講師：公益社団法人 日本理容美容教育セン

ター 理容師美容師養成施設教員資格認定研修会文化論講師,「ファッション文化史 西洋編, 礼装の種類」, 於: 日本理容美容教育センター, 2024年 8月23,26, 27日

社会活動

- ・2022年 6月29日～ 公益財団法人かごしま環境未来財団評議員

商経学科

経済専攻

岩上 敏秀 教授

学会活動

- ・日本ファイナンス学会, 2022年 1月～
- ・日本金融学会, 2022年 5月～

社会還元

1. 講師:「今さら聞けない! ニュースを読み解くための経済講座」, 2024年度東京理科大学オープンカレッジ講座, 2024年 5～6月(春夏期)及び2024年11月(秋冬期),「ビジネスに役立つ世界情勢講座」, 2024年度東京理科大学オープンカレッジ講座, 2024年 7月(春夏期)及び2025年 1月(秋冬期)

福田 忠弘 教授

学術論文

1. 「戦前期蘭印における真珠貝採取船拿捕事件(1936年)について」『研究年報』, 第55号, 2024年 3月, pp.1-11

その他(研究助成)

1. 研究代表, 科学研究費基盤研究(C)日本学術振興会「戦前期日本人水産業者の外南洋進出と南進論」, 2020年 4月～2024年 3月.

船津 潤 准教授

学術論文

1. 「シリセナ大統領期のスリランカ財政-多層的構造を踏まえた財政分析(下)」, 単著,『商経論叢』第75号, 2024年12月, pp.1-25.

学会活動

- ・日本地方財政学会, 2000年～
- ・日本財政学会, 2000年～

社会活動

(非公開)

前田 千春 准教授

学会発表

1. “Designation of World Natural Heritage and challenges of traditional small-scale forestry in Okinawa”, Chiharu MAEDA and Ikuo OTA, IUFRO World Congress 2024 in Stockholm, 27th June 2024
2. 「沖縄県やんばる地域における共同売店の現状と課題」, 共同(○前田千春, 大田伊久雄), 林業経済学会2024年秋季大会, 於: 九州大学, 2024年11月24日

学会活動

- ・林業経済学会, 2014年10月～
- ・日本森林学会, 2018年 4月～
- ・亜熱帯森林・林業研究会, 2024年 8月～

その他(研究助成)

1. 科学研究費助成事業, 研究課題名: トルコにおける国有林内の不法占拠村落の実態と森林共同管理の可能性(研究代表者), 研究種目: 若手研究, 補助事業期間: 2020-2024年度
2. 科学研究費助成事業, 研究課題名: 南アジアのコネクティビティとエネルギー転換: 開発と環境保全をめぐる文理融合研究(研究分担者), 研究種目: 基盤研究(B), 補助事業期間: 2024-2028年度
3. 科学技術振興機構 社会技術研究開発事業, 研究課題名: 孤立・孤独予防に資する近隣社会環境の多様性の可視化による戦略的プレイスメイキング(研究分担者), 研究領域: SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築), 補助事業期間: 2023年10月-2027年 3月

山口 祐司 講師

学会活動

- ・日本科学史学会 2010年～現在
- ・工業経営研究学会 2018年～現在
- ・日本経営学会 2018年～現在

経営情報専攻

岡村 俊彦 教授

学会活動

- ・ 日本人間工学会, 1987年 4 月～
- ・ 日本生理心理学会, 1988年 4 月～
- ・ 日本心理学会, 1989年10月～

社会還元

1. 講師：『講座：ICT技術とプログラミングの基礎』において「AIとDXが社会にもたらす影響」, 「効率的な業務推進に役立つパソコン操作のコツ」を担当。中堅教諭等資質向上研修 於：鹿児島県立短期大学, 2024年 7 月31 日
2. 講師：「Word, Excelの効率的な活用の仕方について」鹿児島地区栄養教諭等協議会夏期研修会, 於：鹿児島県立短期大学, 2024年 8 月 9 日
3. 講師：「そこにAI(人工知能)はありますか？ ～0歳から100歳まで役立つAI～」奄美サテライト講座2024, 於：与論町地域福祉センター, 2024年 9 月 8 日
4. 講師：「文化継承におけるデジタルアーカイブとAI」第3回長田須磨シンポジウム (ITによる文化継承), 於：大和村防災センター, 2024年11月 2 日

社会活動

1. 社会活動, 2003年 4 月～, 鹿児島産業保健総合支援センター 特別相談員
2. 社会活動, 2007年 4 月～, 鹿児島女子高等学校 学校評議員
3. 社会活動, 2013年 3 月～, 鹿児島ラ・サール学園 評議員

岡村 雄輝 准教授

学会活動

- ・ 日本簿記学会 (2018年 8 月～)
- ・ 日本記号学会 (2017年 4 月～)
- ・ 日本会計研究学会 (2013年 9 月～)
- ・ 日本会計史学会 (2012年10月～)
- ・ 九州経済学会 (2009年12月～)

社会活動

1. 2019年 9 月～, 鹿児島県公衆浴場入浴料金審議会委員

倉重 賢治 教授

学術論文

1. 「Selection of a Tourist Spot using AHP- Comp

arison of Eigenvector Method and Fuzzy Linear Programming Method by Simulation -」, 単著, 『International Journal of Japan Society for Production Management』, Vol.9, No.1, 2023 年12月, pp.17-22

2. 「多段階組立工程における従属型搬送システムと独立型搬送システムのメイクスパンに関する比較」, 共著, (○森本陽太郎, 倉重賢治, 柳川佳也, 有蘭育生), 『日本経営工学会論文誌』, Vol.75, No.3, 2024年10月, pp.102-105

学会発表 (口頭) / 学会発表 (ポスターセッション)

1. 「AHPを用いた観光地の選定一意思決定者の判断に対する信頼性一」, 単独, 日本生産管理学会第59回全国大会講演論文集, 2024年 3 月, pp.68-69

学会活動

- ・ 日本経営工学会, 1993年～
- ・ 日本機械学会, 1994年～
- ・ 日本生産管理学会, 2003年～

社会還元

1. 講師：「ICT技術とプログラミングの基礎」, パワーアップ研修 (中堅教諭等資質向上研修), 2024年 7 月31日
2. 講師：「確率でみる野球」, 出張講義, 於：伊集院高校, 2024年 9 月19日
3. 講師：「『奄美の民謡と昔語り』音声と映像のデジタル化—音声テープのデジタル化—」, 第3回長田須磨シンポジウム, 於：大和村防災センター, 2024年11月 2 日

瀬口 毅士 准教授

著書

1. 吉村純一編著, 『消費文化理論から見るブランドと社会』, 中央経済社, 共著 (○吉村純一, 瀬口毅士, 他 6 名), 2024年 3 月, 195総頁, 担当箇所：第 7 章「CCTと多国籍企業の市場戦略」, pp.150-169.

学会活動

- ・ 日本経営学会, 2006年～
- ・ 日本比較経営学会, 2004年～
- ・ 多国籍企業学会, 2013年～
- ・ 日本流通学会, 2014年～
- ・ 経営史学会, 2014年～

社会還元

1. 講師：「物語とマーケティング」, 伊敷公民館講座, 於：伊敷公民館, 2024年11月13日

社会活動

1. 2021年10月～，鹿児島市新規創業者等育成支援検討委員会委員
2. 2023年4月～，鹿児島地方最低賃金審議会委員
3. 2024年5月～，鹿児島県総務部学事法制課「魅力ある県立短期大学づくり検討委員会」ワーキンググループ構成員

竹中 啓之 准教授

社会活動

1. 2021年6月～，公益財団法人鹿児島住宅・建築総合センター評議会 評議委員

近間 由幸 講師

著書

1. 大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』，旬報社，2024年6月，565総頁，担当箇所：第二部第三章「主要産業の動向」（「商業・流通・サービス業」の項），pp.235-238

学会発表（口頭）

1. 「書評 小松史朗『日本の生産システムにおける労働管理：変容過程とその含意』ミネルヴァ書房，2023年」，単独，社会政策学会第149回（2024年秋季）大会書評分科会，於：大分大学（対面開催），2024年10月20日，社会政策学会第149回（2024年秋季）大会プログラム，p.14.

その他（研究助成）

1. 研究代表，科学研究費若手研究日本学術振興会「小売業における接客サービス労働の労働過程と労働移転に関する研究」，2024年4月～2027年3月

学会活動

- ・日本労働社会学会，2015年～，幹事，2022年12月～
- ・社会政策学会，2016年～，春季大会企画委員会，2022年8月～，学会誌編集委員会，2022年8月～，第149回大会若手研究者優秀賞選考委員
- ・労務理論学会，2019年～

二部商経学科

宗田 健一 教授

学術論文

1. 「Robotic Process Automation（RPA）が税理士業務等に与える影響—RPAメーカー・ベンダー，税理士事務所へのインタビュー調査を基礎として—」，共同（○宗田健一，櫛部幸子），『中小企業会計研究』第10号，2024年11月，80-94頁（査読有）
2. 「税理士の支援が中小企業の資金調達と返済に与える影響—コロナ禍・アフターコロナにおける税理士へのアンケート調査結果を基礎として—」，共同（○櫛部幸子，宗田健一），『中小企業会計研究』第10号，2024年11月，50-63頁（査読有）

学会発表（口頭）

1. 「書面添付制度と保証に関する理論的・制度的研究」（課題研究委員会中間報告），共同（○河崎照行，宗田健一他11名），中小企業会計学会第12回全国大会，沖縄大学（対面開催），2024年11月15日

学会活動

- ・日本会計研究学会，2002年～現在，会員
- ・国際会計研究学会，2007年～現在，会員
- ・日本簿記学会，2008年～現在，会員
- ・日本会計教育学会，2009年～現在：会員
 - －理事（2017年～現在，ICT委員長：2023年～現在）
 - －第17回全国大会，準備委員（2024年10月～現在）
- ・中小企業会計学会，2013年～現在，会員
 - －理事（担当：渉外），2021年～2024年
 - －理事（担当：事務局），2024年～現在
 - －学会誌編集委員会（委員），2021年11月～2024年11月，2024年～現在
 - －課題研究委員会（委員），「書面添付制度に関する委託研究」，2023年11月～2025年11月（予定）
 - －第12回全国大会，準備委員（2024年11月15～17日開催，沖縄大学）
 - －第13回全国大会，準備委員（2024年11月～現在）
- ・日本経済会計学会，2015年～現在，会員
- ・日本管理会計学会，2017年～現在，会員
- ・日本財務管理学会，2019年～現在，会員
 - －理事，2023年4月～現在
- ・日本経営会計専門家研究学会，2022年～現在，会員

- ・ American Accounting Association, 2023 ～ 現在, 会員
- ・ 学会誌（非公開）査読者, 2 件

社会還元

1. 講師：「ゲームで学ぶ経営・会計の基礎」, 明桜館高校, 2024年7月26日
2. 講師：「身体と頭を使って, 経営・会計について学ぼう」, 伊敷公民館講座「専門家に聴く, 『いきいき大学』」, 伊敷公民館, 2024年11月20日
3. 講師：「書面添付制度に関する実態調査アンケート結果とその解釈」, 令和6年度TKC九州会企画特別研修, 鹿児島県立短期大学, 2024年12月3日

社会活動

1. 龍谷大学校友会鹿児島支部 理事, 2017年度～現在
2. 鹿児島の次世代を担う「人材・産業」育成プラットフォーム（ネクストかごしま）推進会議 委員, 2024年度～現在
3. 「起業家による出前講座」（鹿児島市）受入（2件）
4. 非公開3件

その他－競争的資金（学外）

1. 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）, 研究課題名：「デジタル化時代における中小企業の会計情報作成プロセスに関する研究」（研究代表者）, 研究種目：令和5（2023）年度 基盤研究（C）, 課題番号：23K01691, 補助事業期間：2023～2025年度
2. 中小企業会計学会, 「書面添付制度に関する委託研究」（共同研究者）, 委託期間：2023年11月～2025年11月（予定）
3. 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）, 研究課題名：「新型コロナウイルス支援融資を受けた中小企業のデフォルトリスクに関する理論的・実態的分析」（研究分担者）, 研究種目：令和3年度 基盤研究（C）, 課題番号：21K01830, 補助事業期間：2021年4月～2024年3月

その他－競争的資金（学内）

1. 鹿児島県立短期大学地域研究所, 「インボイス制度が中小企業の会計業務に与えた影響の分析」（代表者）, 共同プロジェクト, 2024年度
2. 鹿児島県立短期大学地域研究所, 「電子帳簿

保存法が中小企業の会計業務に与えた影響の分析」（代表者）, 共同プロジェクト, 2024年度

3. 鹿児島県立短期大学地域研究所, 「中小企業における書面添付制度の利用実態に関する調査」, 研究成果公開, 2024年度

田口 康明 教授

学術論文

1. 国連障害者権利条約の対日勧告と「4.27交流教育制限通知」の問題点－文科省通知による個々の子どもたちのカリキュラム変更は可能か－ 公教育計画研究14 公教育計画学会編 八月書館 21023年8月25日

資料

1. 単著, 「2023年の教育実習実態調査」『研究年報2023』, 鹿児島県立短期大学地域研究所, 2024年3月

学会発表

1. 公教育計画学会第16回大会（於：京都精華大学） シンポジウム・子どもの権利条約のこれまでとこれから～日本発効30年を迎えての批判的検討 司会, 自由研究発表・国連障害者権利条約批准後のドイツの障害児教育

藤野 博行 准教授

学会活動

- ・ 初年次教育学会, 2015年～, 会員
- ・ 日本私法学会, 2013年～, 会員

社会還元

1. 講師：共立女子大学・短期大学「第4回教学マネジメントに関するSD研修会－教育力向上を目指して－」, 於：オークスカナルパークホテル富山, 9月13日～14日

社会活動

1. 2024年4月～, 鹿児島県事業認定審議会 委員
2. 2023年4月～, 特定非営利活動法人北九州未来教育塾 理事
3. 2023年2月～2024年3月, 北九州革新的価値創造研究会（公益財団法人北九州産業学術推進機構）世話人
4. 2013年4月～2024年5月, 独立行政法人国立青少年教育振興機構 研修指導員

山本 敬生 准教授

学会活動

1. 日本公法学会, 2001年10月～現在
2. 行政判例研究会, 2001年10月～現在

社会還元

1. 講師：「選挙とは何か－インターネット選挙の可能性から考える－」, 特定非営利活動法人NPO造士館講座夏季集中講座, 於：鹿児島大学, 2024年8月3日

社会活動

1. 2005年3月～現在, 鹿児島県地方自治研究所研究理事
2. 2013年4月～現在, 同研究所自治体創造プロジェクト主査
3. 2017年11月～現在, 自治研かごしま編集長
4. 2013年4月～現在, 鹿児島市町村統一的情報公開・個人情報審査会委員（会長）
（枕崎市, 指宿市, 西之表市, 日置市, 曾於市, いちき串木野市, 南さつま市, 志布志市, 伊佐市, 三島村, 十島村, さつま町, 長島町, 湧水町, 大崎町, 東串良町, 錦江町, 南大隅町, 肝付町, 中種子町, 南種子町, 屋久島町, 大和村, 宇検村, 瀬戸内町, 龍郷町, 喜界町, 徳之島町, 天城町, 伊仙町, 和泊町, 知名町, 与論町, 鹿児島市町村総合事務組合, いちき串木野市・日置市衛生処理組合, 指宿南九州消防組合, 指宿広域市町村圏組合, 大隅曾於地区消防組合, 大隅肝属地区消防組合, 沖永良部与論地区広域事務組合, 徳之島地区消防組合, 曾於南部厚生事務組合, 熊毛地区消防組合, 種子島地区広域事務組合, 公立種子島病院組合, 鹿児島県後期高齢者医療広域連合, 種子島地区広域事務組合, 以上鹿児島市町村統一の情報公開・個人情報審査会に加盟する9市24町村15組合の情報公開・個人情報審査会委員（会長））
5. 2013年4月～現在, 鹿児島市町村統一の行政不服審査会委員（会長）
（鹿屋市, 枕崎市, 指宿市, 西之表市, 垂水市, 日置市, 曾於市, いちき串木野市, 南さつま市, 志布志市, 南九州市, 伊佐市, 三島村, 十島村, さつま町, 長島町, 湧水町, 大崎町, 東串良町, 錦江町, 南大隅町, 肝付町, 中種子町, 南種子町, 屋久島町, 大和村, 宇検村, 瀬戸内町, 龍郷町, 喜界町, 徳之島町, 天城町, 伊仙町, 和泊町, 知名町, 与論町, 鹿児島

- 島市町村総合事務組合, いちき串木野市・日置市衛生処理組合, 南薩地区衛生管理組合, 沖永良部バス企業団, 指宿南九州消防組合, 指宿広域市町村圏組合, 曾於北部衛生処理組合, 南大隅衛生管理組合, 伊佐湧水消防組合, 沖永良部衛生管理組合, 大口地方卸売市場管理組合, 伊佐北始良環境管理組合, 大隅曾於地区消防組合, 大隅肝属地区消防組合, 伊佐北始良火葬場管理組合, 曾於地域公設地方卸売市場管理組合, 沖永良部与論地区広域事務組合, 徳之島地区消防組合, 曾於南部厚生事務組合, 熊毛地区消防組合, 種子島地区広域事務組合, 大隅肝属広域事務組合, 徳之島愛ランド広域連合, 公立種子島病院組合, 鹿児島県後期高齢者医療広域連合, 種子島産婦人科医院組合, 以上鹿児島市町村統一の行政不服審査会に加盟する12市24町村26組合の情報公開・個人情報審査会委員（会長））
6. 2015年3月～現在, いちき串木野市自治基本条例推進審議会委員
 7. 2015年6月～現在, 鹿児島県後期高齢者医療広域連合特定個人情報保護評価審査会委員
 8. 2017年4月～現在, 鹿児島市町村総合事務組合退職手当審査会委員
 9. 2017年2月～現在, 霧島市情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
 10. 2017年2月～現在, 霧島市個人情報保護審議会委員（会長）
 11. 2017年2月～現在, 霧島市行政不服審査会委員（会長）
 12. 2017年4月～現在, 始良市公平委員会委員（委員長）
 13. 2017年5月～現在, 始良市行政不服審査会委員（会長）
 14. 2018年12月～現在, 鹿児島県全国がん登録情報有識者会議委員
 15. 2020年9月～現在, 始良市情報公開審査会委員（会長）
 16. 2023年11月～現在, 始良市行政改革推進委員会委員（会長）
 17. 2024年2月6日, 宮崎日日新聞コメント「川南町・指定管理者選定問題」
 18. 2024年2月11日, 南日本新聞コメント「遠くなる議員2024鹿児島市議選（上）」
 19. 2024年3月24日, 南日本新聞コメント「裏金事件で自民で『逆風』」

20. 2024年6月25日, 南日本新聞コメント「期日前投票0.05ポイント増」
21. 2024年6月27日, 南日本新聞コメント「東大, 官僚出身が半数超」
22. 2024年8月5日, 宮崎日日新聞コメント「川南町長あす告示・町の分断どう解決」
23. 2024年10月17日, KTSライブニュースVTR出演, 「あなたの投票の決め手」解説
24. 2024年10月27日, KTS「Live選挙かごしま・その一票で未来が変わる」スタジオ出演, 第50回衆議院選挙解説
25. 2024年10月28日, KTSライブニュースVTR出演, 「有権者が政治にあきらめ」解説

